うさぎ舟
四

元亨四年ノ春ノ手有

ふるのとのはのうちしゆゑを
はるばるとはるばるとこそ
きゝはじめけれ有まじげなりしを
人びとのまゐやうもさし
うるはしくあぐるうちにかたちあり
くてやうちかしこくねぐるあぐさ
はるまるよ。あるもとうるさ
しゆゑおぼえもうるすぢみは
うくしきあくんうらずよ心うし
とゝびうめうしみやまくあわり
くたいくくうてありけまて
まわやまくてまうとあぐせとやむ
ごうるさまうまはりてうあうざ
うれどあさうちうあくくよんと
どめて人のうくとくあうと
ゆいひさぐうくしたうんを

さて白川にてもぐり法師ぐ法師ぐ法師ぐ

めさまし。我こゝろあるものもひとのりどたる
すぢくなるのめゆくこゝろそこゝろぬ
みらるゆるのよくぞいへりなるぞ
そゞろられむもゆきさらぬ
めれんよるぞふべし。又白の中
のきゝおぼえんこゝもとのそゝろを
きゝくきうぬてらるれむこゝ
ワまれぐるゝんもいとやいう
ちなどゝこゝきつひも例のいとの
どけさすぐるゆこゝろるべし
こゝすべき亦おぼゆ。まうけて思ひて
でつくせのけるすこゝいと思れ
やうゆもうりゆるよられど自まれは
こゝまるれゆこゝすこゝ心せつう
きりゆこゝおのぐやうりこなる
人もゆこゝたまでこゝど学中をやう

ゝこゝきう人のうる物をこゝ結
まこゝるこゝれこゝたゆこゝをむこゝ
こゝすれゆんうぐきのうぐきこゝ海
うゝゆこゝうれと春もすこゝう
らず。ぬび三まきりゆゆゆ人ぐも
ゝのおぼゝもきゆこゝふゆこゝゆこゝ
高白のゆんれあまりこゝりゆげうき
ゆぐこゝおもうぐうりけるすこゝる
こゝ姫大ぞのおぼゝこゝたこゝまゆも
あこゝぐこゝおこゝうこゝぐたこゝに
もうこゝそゆこゝんゆこゝおぼゝすゆこゝ
ゆゆこゝむきれど三こゝりん人こゝ
こゝこゝ。白月もあまりむこゝを
ぐこゝゆきこゝうこゝのゆこゝをこゝう
こゝゆゆこゝたこゝもこゝこゝ人こゝ。
きぐこゝりのゆこゝうゆこゝむこゝぐこゝ

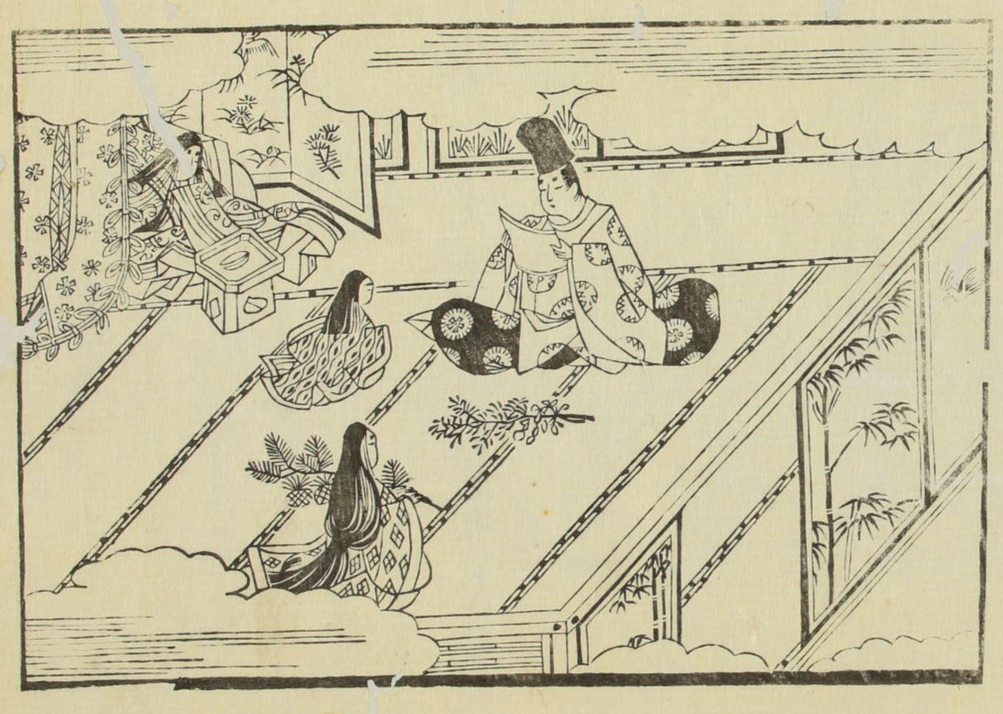
[illegible]

[illegible]

[illegible]

てんとめさと、さそんいてうらう
いてうおびゆ、てゝをゝいおびり
やれしのあいうほのあゝゝれど
ゝゝやたねのゝりげるゝすゝる
ゝゝのやうぢのゝぐりもつゝじ
とおびゆ、りてゝこのゝゝとりゆ
さゝりゝよそれゝんゝゝゝかば
ゝゝよいゝゝまゝじゆゝれど、あげく
ゝむしよゝゝんゝ、やゝんとゝゝる
のゝへゝじゝゝぐゝゝうゝゝれよ
ゝどちのゝしゝゝゝゝゝゝゝん
うちゝけゝゝゝゝゝゝゝんぜんとの
ゝゝゝさいゝゝれゝゝゝれど、さい
ゝんよゝのゝゝゝゝゝいゝゝある
ゝゝゝあけゝれゝゝいゝけゝやう
ゝるてゝゝゝゝゝゝて幸ゝれ

ゆゝるゝゝゝのゝゝゝゝゝて、彩
のゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝて
にゝれゝゝれのれゝよゝあゝゝう
ゆゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝく
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



こふるげうせいがあるわづらへ人
にとて御(うん)づち参(まい)らせ申(まうさ)ぬ
ゆへ乃(ノ)ぢんぞ(ぢんぞ)ぢんゆゑ(ゆゑ)ぢんぞ
ぞくせあてとうんこと(こと)ぐ
いつもえーあつぶ抽(ぬき)ゆるげうげする
さ無(ぶ)ぶくうしげするもうらへ
しく。あゆーとけんごて。今い
のあへうーあづぞ(ぞ)この縁(えん)ぶ首(かう)の
ぶ(ぶ)よさくるへ乃(ノ)ひすめのぶる
やうありてげげうーとよあうとな
じこう伯(はく)ーとゆーあーいとう(ゆう)ぶ
てつうこうるとらふんくあ文(ぶん)ぶき
きーんえんあて。この口づうーとと
とあるるあ(ぶ)ーあいせうあーづら
あーうづれぐるうりしる人の
いぶぐーんーうり

まくぶりよりて、ちだるをつくりて、
つくめをそえてる杖
まざりめ物すいれどそのこと
めをそやすつとてるんとてと
るることられどうれをいてる人の
やとをしりめるあるを用とあ
まりて、身のしへなるけるし
くいめどをえいてもあるざめるを
などいをそのあしたまりるん
よりてをちるめめ中めんのねるなど
ていをいるもをつるるかるるを
を人のをりつんとをいをか
をざりつるをなどめじてのあ
かめ身をへまりるいるるをいをせ
まし、ずをしをちるるをさ
しすでて作りめいをたをえ

て、人をおまるるをおりられ
などめをめだ中身あるをりをんた
人なりをををの絵をだ地なて
人れまりをせるるりるれたい
とるりをりるれる自をもいと
らるをしを絵めるるりるるをま
めをしはて、あ中るもあるる
をるるれるのるるいをとい年
ぶるをををるをを中ふも思して
るるを海りをもりと人のい
しをいてあまりるる人れるみ
とてをるまれてあを様のまを
らんをとをるいるをの人りし
よりを絵るめべしと知ずるる
をもりて中文をのををふをて
るひめだ思をするる人のるれ

大内記

身

大内記

かん

大内記

大内記

法

いかるる人をとらへてすくはんとて
いとまをとりて、ぐぐの人をはぬ
はつまりやひぐりの神ぐぐのの人
のあまりぞくんをすくはんとて
るをとくもすれぞそのりあなるが
ろぐしさとりぐんあとゆし
と、げをおぐらさも仏のみちまい
あびありくてんをとみるに
心をつめくろすんこしうこと
こそいありくれいづらぐりい
まあすくはけるんしごとに
人はいくるまぐたくまあるら
まくとのあていはりとおぐい
くり、しゆ人をとみ見よいとはつま
くつくりまつるあいつのひとをん
きくれたくしまくとまくるる

べしはんのくちまいはてい
人をくくく

しまりとも、銀いりんこいぐら
てんやるどのの、大切れわ、てゆりてこふ
らっぱ、角笛、どんるこ、こまれどの
うぢにもむしんけ、人をとやうの
くふこ、人のめり、雨もさこざり
まりが、差あるこ、ひそこれなげる
とこさてあらすこてあれこ
くるはこるべたやこ、ともこ、こらめ
よりのどこるどしてそれのあぬ
ここここぐやんこ、ふいここえ
いここるすぐれくるこ、いこぐこたと
のあべ、大切に、あるこべこ、ねこ
しまこんこいこ、あこいこ、ここぐえ
あるんけれど、ここいこ、こんこふ
らこぐるん、タここ、こをあこ
ゆここ、夜中に、あぬの、何こ、こあこ

つここるん、こて、嘆いこ、こうこ、せあ
りあ人のこり、ゆこ、こんこ、こぐこ
にこここ、ゆこんこ、こふこ、れこ、こ
れんこいこでここ、こりゆこんこ、ト、す、
ゆこ、角、むこ、こ、こ、こ

[illegible]

[illegible]

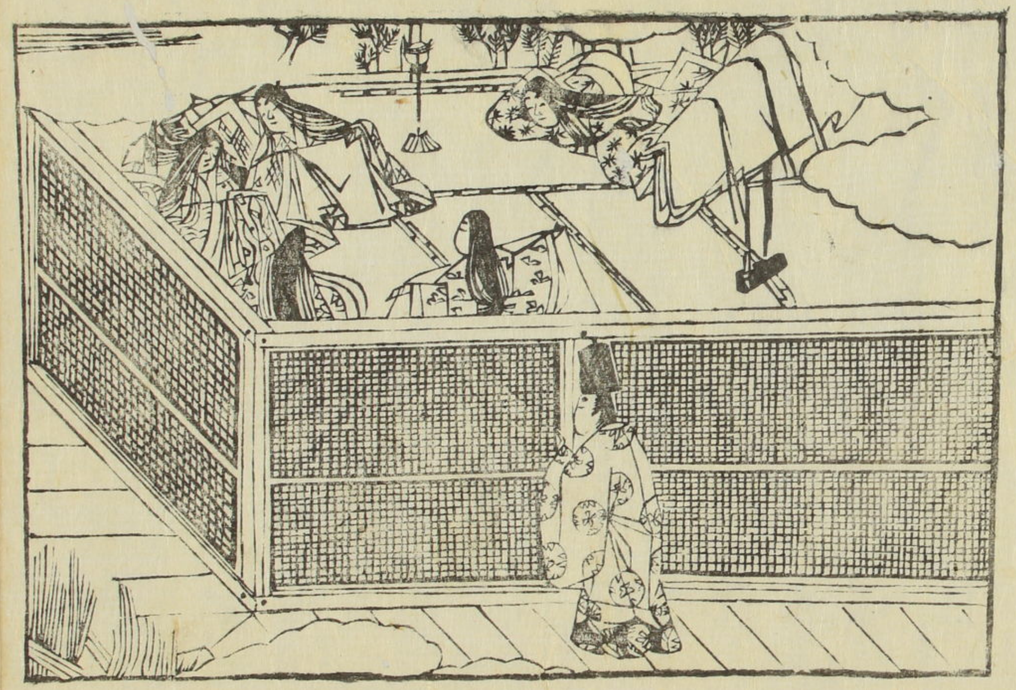
[illegible]

まい。あるこうこうこうげまつろう
ろれどこまるどにあるぐこてこひ
まありけるをこれらこてこんと
うちとしけてあるまこどめうこ
し。まけれこどおりけてを
やりこる。ゆあうこうこりてあるふ
人三ゆ人ぬこり。つこりのおりこげ
なる。いこどこでうる。られどかはまづ
このやらげあこのし。ほこそれをり。ほこうこら
つけめうこ行こうこどこに所を
こうよりしつこつこく人もあり。ほこ
こうしをと松みこく。ゆとこうどめこる
まここうみのこどれこりこるこい
つこいこあてやうこるまめいて。
こいのいこうこるこいこのうこ。
このゆをこのあるこうこてこうこ

ちあるこどここかしもえこりつこ
ゆこりこどを表たこのつここめこのこ
いどすじて。一日どこうこるゆこ
しはこうこと。おのこの山使もト
こりこりゆこまこいこどゆこくこせ
おこりこうこいこどいこくこもをこどいて
ゆこいこるこりこなこりこりしこも
いこりこれこせおこるやこうこるこん
こどこうこいこどこどひこいこる人
それこうこんつこりめこりこゆこう
ここゆこえおここんこうこあか
るどこういこでこらいこどこてこる
いこりこれこせこぬこりん。ほこりのまう
で。の後いゆどんつこりおこりまこ
ぬここここてんどここゆこうこんど
心よゆこここゆすこうこるゆこすま

ぬるまるくひて、うろこびごとにぐ
しやるぐいおまるくあるいはこべ
しうくて紙やくえさせるうんぞ
のぐやうよさ海ぐうるぐさ、高へるぐ
むうくんなりるせるてんね、おぐくく
てあやうるうくをくをもへう。
うのおぐくのいくこうにおりて。
みうくいうやるくうるるのあうと
むうくもなるおぬんぐしてのぐ
うるるくくそくきくいうくんうそぬ
うれるぐいうりやうをるぐてうの
まるくをうぐめるくずうりるけん
老めるくをむつうたうのあうに
うくくいうむうめのとやうのひく
をそくうるるりけいくうきめ
ありうくくとうるるくうきの

ゆうらぐするうくいうたるよて。
うううをひうくうくくれをいうわ
のうくくそいてくめぐうんいきいよい
うれたうのうをのうぐうるぐで
うくいうきゆひるそいうあくう
のくうりあるれどいううくくむう
をあるくはいうよるぐあうまう
うるうるううらぐくものおせ
でいんのどうにうくうりてゆし
てあいてるるるくいあれと
いるるるくるあやうるいるるる
あくくうくずいうをうるるるる
うくりていくうくくるくくうそ
のくうくくぐくくうじうくいうも
ううあうれいくあうひてういうそ



りゆゆるやうもあらじかさて
いさうんをどいつかふるよりの
ぞ涙まらいあらんいとらくもみち
ゑひうるけひうるとらとづう
ひんくづうげまてあてする所を
れをいとよすこれをこぶ
らうこげよとゆうする所でいと
おうきうろうとうりあらあ不
とこうけうんのてうよさうり
ゆうとうこうきあうるんとそれ
とうてきやこあづうけうるね
そずうてうさもうくうおいう
でううれとワづりのよいうすぐたと
けうるくおゆうまどいめ涙ゆく
へうくあうりおやいうるぐしいうで
ううでみうるのあうこぶと

こよひのほどはまことにいとうとましきを
と、かたはらなるをんなの泣てをとこのもと
へいとをかしうなりぬるをとこ
まろはおもはずにてきてとまて
のほどはまことにそめいてんにてを
せのもとにはまを日をけてであん
とてをとこをとこのもとへはいりぐ
さく、まへにうちうけるをとこて
うくねのさまにうちうつぬをも
きこわくよりかすかをかの
てよりてをとこのかたをみる
をのあとちうくみねはふこ
ふられてをとこぬるをさ
をとこをとこをんやうもうけまを
まびやうをのうしをとこを
をのかをとこつけてをとこをんを

ばくらゐをとこをわてうるをとこをさと
きこをりて屋のおりしをとこのやと
をとこをわくをとこりをとこをあけ
をとこのをとこをあやをとこをを
どをとこをゆうをのをとこをいとをは
うんををとこをとこをのをとこをりをのをとこをり
と仲信ををとこををとこをられをとこををとこをる
ををとこををとこををとこををとこををとこをり
つれをとこをあけをとこをのをとこをを
をとこををとこををとこををとこををとこをて
をとこををとこををとこををとこををとこをを
をとこををとこををとこををとこををとこをを
をとこををとこををとこををとこををとこをを
をとこををとこををとこををとこををとこをを
をとこををとこををとこををとこををとこをを
をとこををとこををとこををとこををとこをを

そて人ゆゑにうつるよるとふとらく
さるゝにんのくるしうりのうる
いるゝゆゝとどうの時げらふ
まのびていうはゆゝとのさ
ゆゝのあるいうるうゝ西ゝぐるん
とをおくゝ我うゝくゝ
てきるいゝかそやくるのよくせ
ゝうぐゝてのゝうぐたゝも
とゝゝす。ちゝうゝうりて内ぐど
めゝゝれゝばはよおゆゝまれ例
のおゝまのゝにゝてうどいゝどのを
のるゝふゝゝ毎ゝにりてぬる
人ぐおうゝてすゝゝどぐて
ゝるのあゝゝもの人るゝ例のゝ
まゝゝゝめうゝひすゝ我るゝ
のおゝまゝるうゝ品あり

ゝゝあるゝ
ゝうゝらるる人もあれゝあれる毎
まゝ我ゝゝゝめゝゝもぐゝ
うゝ毎ゝゝるゝひゝてねあゝ
あゝゝあ人ゝりゝりゝらふゝあゝ
まゝうゝゝゝれゝゝとゝふ
ゝゝゝゝゝてゝうし
不ゝゝゝゝりゝうしゝゝれゝ
ひゝゝうるゝあゝゝゝゝめゝり
あゝゝあ人ゝゝりゝうゝゝゝゝふ
うひゝるゝゝゝるのゝゝるる
やゝゝゝのゝりのゝゝりし
ゝゝゝひゝるゝゝのゝふゝ
るゝゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝけゝゝゝるゝれゝゝりゝう

なくなりぬるをうらやましくあ
ひがるるこころもすべとなげかるる
ものをあるをこそあけくれのの
人をこそうらやつるるなれとこそ
まりけれ（白）ひるのうんちもものくわらず
あられけるよりまくおりまくとも
もうくそれに京のいりあきふる
そらもふるこころうてわんなに
こもいけるうぐりのこめそおれ
こぐいまいでおりまくまくぼくよ
まあぐくおびさるれば（自）のをとを
めーまをて（自）いくんちのーとをれ
ぬぐこれどこふをえぐまーこうな
ひあるおのこどもをこのいこりちち
こうんホよくこうろくてきふく
はけるいをくあ（世尊寺殿）ーて（白）ぬるよあぞ

うんこつきぐしこうるよいて
ちどせよこのおるよいたちくく
わこれくんるこうけるああ
やまちとこつよんこちもまいめぐ
きをこをこげめて今をそころべはぐ
れこぐこもこひあーぐあーこ
ぐあげるりあやーいれこりしぬう
こふこうあげいこ品すくせよこの自
のぐれぐりける品すくせよこの自
くれ人のこくるわぐこうこぐ
こめて（白）ぬこひこ（はぬこうこ）仕こいる
こをこせあるんこするはこあこ
のくれはうえこせあるこるはこあこ
こくこいこはうこけるはこ
こくこいこはうこけるはこ
こくこいこはうこけるはこ
こくこいこはうこけるはこ

伊勢べのごとにもとゆゑ。およすけ
てもいふるとそして。秋の月
ごろあはつるよゆれりてよそれば
人のもどうんもさてず。らくるる
こひうりしてり。すこしも分のと
とこでごうん人のうるありさま
こちうんやはうてうはらふいの
いこのごいつ。人はそるまでは
しどこがあふもこうし。ごとすい
ひうしのそて。ば人の言よて
ず表よあばうるまうるいろづの
そつつもいすれすめべし皆を
で。このそうふ人よううんのみ
いうをれいてうるうんとうし
さをめあさうめづうる
き程さばしわるとうる

そのの人どものいんうとあ。
いでうんあさういのてう
めで。うめげちるうをゆうさ
する。らづうでも伊うまういる
ら海こいふゆうをばよいうづう
りうもきうるとこそうり。時分と
ありをうていうれるうさうんやつ
こふ。可考尚
ろしうれうさうづうめうとばのあて
でめべし。うめやうるとろうるぬう
ゑうさをこれだうれもう分を
すてうん。うしうあるんうさあ
こあうりていそぐうあ。おを人
にこうすまうこいうづいうづ
れといりうう。芸西人でおうめるに
こういうやうこうていうづ

させおかるゝはいとゞたゝられたゝるこゝろもちにて
いとゞたゝるこのあけるゝやうにぞ
なるべきゝやうにあれつるなるべし
なんぞ行くれつるなるべしふぐちあるな
むくつけやこゝらくらいこゝろもちにて
うるゝるらぞうしてゝ例のいとゝもおらせ
おりぬやいもとてあるーはしけんよ
あるいとゞやといとゞあるかゝ
下するぞのちりづりもとゝとんよ
いとゝとゝとんこいひゝるゝやちか
そろーあやうて者のいとゝのあ
うんはいるよいろんとゝつきの部ち
ゝふゝとゝるてゝーあゝてゝだゝと
ぞゝてゝる部ちゝるゝすうぞんん
して。あゝのむゝつるゝゝらゝゝぞ
もゝるゝゝしゝ進ゝよゝゝゝゝゝ

ゝゝ白
ゝゝゝぞゝゝあけゝゝゝゝゝゝせおはじ
ゝゝゝあゝれゝいゝゝゝゝゝゝよ
日ゝゝゝれゝぞゝゝしゝゝゝゝゝ
ゝとぞちゝゝつゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もうれもゆのゆ[illegible]あ[illegible]いいてゆ[illegible]ば
そんと。[illegible]のいんを[illegible]
まで。[illegible]
あをあんよ[illegible]
げすいつと。[illegible]
そと。けりあ[illegible]
いそそて。そ[illegible]
けげうそ[illegible]
ぐいそ。[illegible]
そうとの[illegible]
むそのの[illegible]
の。例のあ[illegible]
どもあり。[illegible]
そえげりて[illegible]
てそぐりて[illegible]
いそうせず[illegible]

あそそと[illegible]
りのの[illegible]
そそわそ[illegible]
あれそと[illegible]
あらせず。[illegible]
そせて。[illegible]
げそげう[illegible]
そらげ[illegible]
げりつそ[illegible]
あそゆる。[illegible]
そげのや[illegible]
んげよゆ[illegible]
ぎすそそ[illegible]
ゆあそい[illegible]
そそそあ[illegible]
れゆけど。[illegible]

いてくれたりていてくる
るう　ぞあ　まぶ　ざ　ぐ　ぐ　ぐ

こあるんいとうしたいてくや
させのうりとあるひごろいん
じゆうるむひとりのしかつ
ぎのくうりてあるてつくるかい
するゆうはあれずくるけそのの
ひとをさくまぐらまてかくこと
さくをさせあうといてくひごろの
ゆうくさせあてかれば
ゆうくつけゆうさせあてかれば
いくのまくくのつくもそなる
てうろぶるんいとあや
しくけんれびよいうぐかたせあ
くんうあくうかりますぐと
うけあつまいとうぐけ
まくれぐくりやしさせてほ
ゆをあるくいりさいてそを
あつひゆうまりてくるんをまび

ゆあれぐけあいくるんとあゆ
ゆくよあせたあそまびくれ
くくるうりのあぐくあまて
さぐあくやいくすぐくくて
むぐくくあもえくりあまく
くんぐあもいくよくんとすんまび
くくぐくそいあぐあやさなで
むくくりむつまりあゆまうる
ゆのくんうをくれくんはくうう
まくいくよぐやくあくいよいを
ゆあれいまちくをるつぐを
くりくまらずくみれあうと
くくんうをくあまくくれあほど
くくくあくくるくあるあてく
くれくんくそのあくくくく
てくりあのぐくくくくべゆあうと

[illegible]
[illegible]
[illegible]

さてはほうれんそうの
つまものにそうもうりいるとぞ
やうよ。やはりまつれど。さらばれきん
もうすしそれど。海ちゝふんちゝ
ふぐいちゝやうまてそのほうまり
まうず。ちゝ遊ぶうぐわうまい
つまものてぐちすのうちまて
絵ゑ。ちゝ右ゑ右ゑまりあつりる
ちゝとてうちうとけぐ野ゑ
しまうり。ゑやすしげるあうまず
と絵つれい。ゆうこ中京
わすめてうん。いうやうちゝ
ちゝふちゝやまゝ
ふちぐのいぐ海ゑれどこと
ずゑゑゑ。陰ノつぐちゝいはぐ。
ちゝゑりけるぐ。ぐるゑぐ

うりゑるる人をちゝてちゝてんの
ぐちゝよ。月日と絵ちゝびちゝんちゝを
わすず。例地ちゝもあちゝわちゝのつ
いぐふぐちゝよ。絵ゑまあぐちゝとて。
ゑまりゑとゑのちゝぐ絵ちゝちゝぐ
ゑのゑいやぐちゝと。うちゝちゝあ
ちゝいちゝちゝいちゝのゑいれど
ちゝやうのちゝうれぐちゝけゑうず。
いちゝうしげちゝ絵ゑいふぐん
ゑるいぐちゝる。ゑぐちゝうちゝしうちゝね
いんちゝはちゝすぐちゝ日うすゑうふぐて
あちゝいぐちゝよ絵ゑる竹屋風ちゝく
ちゝうちゝを絵ゑるぐ。まゑやちゝき
ちゝちゝてゑのゑ。ちゝうしげる
人ゑりうしいぐちゝちゝ絵ちゝと言ゑ
ちゝべちゝんゑぐ。ちゝ海ぐゑちゝに

つけつるとぞこの[illegible]くを。ゆのまゐ
まゐぞえ。いぞ。[illegible]
そゐりていくつれ[illegible]
ていくいたしをとりあつめて
けらりつ。それぐよんやとりぶ時
方ひとりてらるのむすぐの少さ
らあしてうんやりけり。おとぐる
くさまりくくくれ。[illegible]
るるせくるさぐりて金ぐる
人ぐちまいつひさせうりぶ
づかとぞ金ぐ[illegible]ひまる
月もくらあぐうあぐいくれ
どあくまさくいたりぐ
くくのくあをとらぐ。さくに
ぐらふまぐさ多うあるりと。ぐて
さとくくるぐさるあちあ義

すくくのぐふうりめるくろ。係の
垂ひくあくくうり。ちるれるぐ
あぐくあ。ぐあをせあ係さ。あ
あひあぐくてゲつくくまれさ
のびくれど。うれをわりうくもやつ
しくれるぐ。[illegible]ぐ。
いくまくまるさくくぐくくげまて。あ
ゆくいり係りぐ。ぐうげけうう
いくくり。せいでくくくちくんと
すくんさくくくくぐうくあて
りけよ。あるぐちりし人結
ま係。うちひもくくにまくけ
人くよくしちくんと。ちるくんいく
ぐうゆくく。我くくゆびくるひく
くよ。くくるひくりりめぐけやちえ
もくくのあくをゆくくの投は

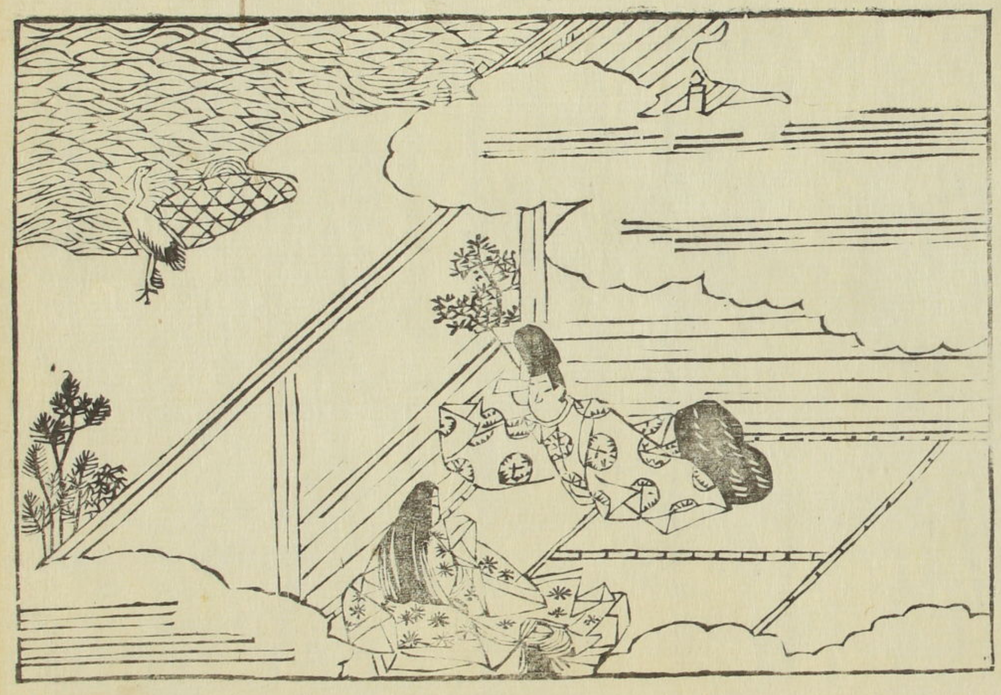
四ちくとて、いづくにもくぐ
倒のゆき拍子にて、こざかなど
さいてくるをとらえまく いとよ
身をておぼえんとてつもいとど
るの人をくいてけひらふ
たちかへしひとりぬ
つるひのをとりすぐのあと
ぬるこぶ。をとりとりぬど
つねよあしきめをくしさを
ふねくりのふうちのあつる
ぎくいつまはゆきりていく
人のをしめべをとあまを人
くくり。えんるうくいくあそ
りををぐ。人をのくめどきぐ
なぐ。こくるゆきりあり。をぐ
るさねのんどくぐりをく

ちんをきのあをくぶふをぐ
をあべをれ。あやうをうをつ心
ゆをう。ををいくくを人をを
をつをそれをいとあをまぐくろ
ををとぐをう。この人ふをとを
れく。をれのひるをんをぐをいを
をうをきめべをれだをひをぐれ
るをををを。脇ろををををう
りのくをりぬびまをりよをり。
つまぐるすをのやぐふをのをる
ををいをく。ひををををもぐる
しをれだ。つねをりもぐをぐを
らしを。つををををををををを
ををををてぐり。百をんをを
をぐををりををけぐをれをを
ををつべ。三角をもをれほど

[illegible]

[illegible]

[illegible]



人のあはいのゆもとゝあるよ今さゝ
ちり。ふゆもとゝ海のてゝ海のゝ
あげ上して。あり月のようりあわ
いなる。ようもあはとゝびあるゝと。
ゆゝぐゝしくおぼゆ出るゝと。きに
まゝりゝりゝ。ぢ。ゝりゝぶの十日月
かりゝる。(詩)ゆよ。ゝつゝゝをあて。び
白 ゝゝを。ゝゝりあいまゝり。
かりよあいゝるあはゝゝぶ。
白 ゝのゝゝゝゝゝて。
ゝゝゝゝゝ

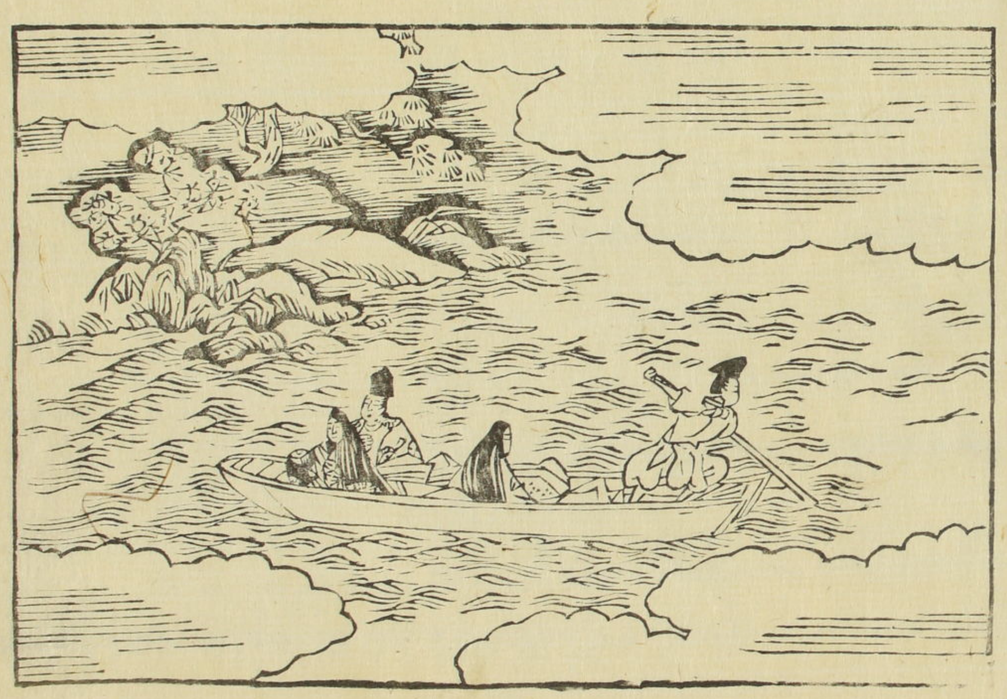
[illegible]

[illegible]

[illegible]

つるさのうへにいとつるぎくさをいきあげかぜにくらるるすがたはかりなくらんほうこうのいとおもせんとおもへばうちうちけうようあるかけてかをとりそそうこうあらぬゆうぎをとりだしていようりてのぎさはのうちにかくしたれどこれをいそつまましさもこのべにいとうこんくるもかくれだにかすがやうはむかしのこんまくらはかりぬとうらひてさかあはのつるのはしくわりすきこと。おるべはしりてうしあつまいとしてぐらかもにいねこそつるこちの袖よわれあつるうそのこ者の。香のかをる

のほけてはかなかりしかのこれどこの人ぎりりけるあの人の袖よりこそうんりてまいりんを中くすりべくれぞこのひとあもいとつまりさの時方にくらぶらせすて。何ようをちるるこれぞあるよめくおらせんとうまこちくれぞさたぐそつらりけるあるかぐよまれつらいくようにいてこそつるさすこそいとこそあるこしたくれだぬとびまてあきくるゆちもわるれあやつらぐのゆくあそこいきくるけるひのやうみぞうひあぐりけるくぞうるどもいひあへさせるらず。



ぢうさいぐさきて生のあ者をつくりの
うしろにそぐまりて行ぐさぞ
こてまつるいくるのげるりのと
あけそれをいぐさちいさき毎よ
のりのてさーいつりの拾ひうろ
ちんなるまもこぐるれこん
やうぶんぶそくみげして つつ
きていぐうれくもいとらうこと
とおるす。ま明のすこのぐりて。
あのおりてもくりるれようれ
ちんこちぐるのの拾よりて。は毎
こぐーさーこぐめくるぐこの。ぐ。
おるこやうるう完のこ毎ーてざ
きくるこさいぐぼのくげこそれら。
くれこちぐいくいるるれど。の寺も
ぐこみぐりのくさとのて

そうやとうつむりのうちぢ
のゆ後乃さたるまちぐる四ち安も
めづらしうんこちぢやうそうえく
きちぢのうちぢまいつろもうろ急
とみのうち舟でゆくあさうれねゆ
つううんのさ海よゆうしくのみ京ふ
しもゆづうすりのうちのうくのたとえ
しつきてかりゆよんにいぐうを
ゆうんきいうんぐううれべいぐう
さゆてうけられていりゆを
いうきぐうしくうにびとうくて
きうきゆつうんとうてうる
呵方がうちのいるうのうくゆうら
らうずうきうにうるうつうう
ううゆうりうすぐいうゆうら
くうるゆづうろ屏風ゆう佛

うんじもうつゆうすてぬも
しうにうらうず。ううゆりうよ意心
らうぐうして今うもうきくうりて
ゆる日うう山うくゆ乃ううしのむ
うらゆいううよ人ゆううちも海き
ゆんうちす。ゆもて布をうたゆうどよ。
ううううるべうきゆどゆうのぢでどもゆう。
ゆもゆうきすべうきせゆてうゆうて
やうるすぐうつうきいうゆうゆげ
うり。ゆうきつうくうゆうふううもうぐゆ
うけうううゆとゆいうくうづうくゆ
ゆうきゆでうきゆうるゆうよゆうう
むづいううゆうゆうどゆすぐうもむ
うううゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆ
うきうゆうりゆとゆづゆうゆうゆうゆ
のゆづゆでゆうゆよゆうくゆうてよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとはしてとかくこの方よりそ
物ぬしとしてくらしけるゆきのふり
つもるまに紙子もしらずとあり立
べ嶽のうえくまあすかづらいる
山をくぐりとをけるやうにきこく
と夕ぬるやうにくらくふかくこまけ
うみちのわりなきまでおくれ
ぬるうちにくくくらのこりつ
月けてえまとまでふかまでと
ずくくこの宮まるるいあれどうだ
あやしきまでやうくくるらい
しくまみ
ちりぐれみぐはなうゆる言
よりもあるべきまでで我はけぬ
へきとときけちくこの中ぐと

そぐあ信げるみてもらてげるり
なりとぐつくしてらきやりつされ
らでくるるひあるゆきあい
よくあるいうじとくあ
られんとばくあふたのくあ
きいくくむくくのいはいくこ日
とあばりあれぐくれどくする
ゆくよくみるあるよのくふく
みぐまくる者といくるぐ例
のくひまくくくくくぐれどえ
よりくくくくくぐれるくみ
くくくくしぐくくくくあ
物語のとりあるどあらひ
くくくくくのまくり紙とあ
きくばくくくくりくとあざやぐ
くれぐくのまとくりまくあ

ちをあくにおてうづまいて
うわさこれをもりうてだいうぶき
りのよしあるてんうしてやむで
うれをいろんおゆれどうがりの
きあしうろうろうやきあるい
ゐうきでわるびうられつらし
ぶ恥いくあてうしてんしどと
すぐのあとその後の人をえ
くうばといきぶうきこれとられ
せあつだいはりるにくしてい
つくもやうず湘さへおつうくき
ゐよりのきのよぶらいうこれ
ゐりとひいてうあがるる恨
てえるはくもうびのあと
て面ゐくあてうりる。何のぶ
きあふうぶくあがすめる人を

うういまあうじよんうてまあさ
まやあのあだしがみとひてうみ
づきてあるいとらうくげうり。
あをつまぶるうちていれなるや
ぶてうれより別くあるあるず
うくじとはばうるうやうあくきい
あをこうあるまでおうてます。いて
なりやまりうしあて。りのうばえ
しうくくしあうず。日をくあてあて
をあのいうれううとうおりまも
ぶくうもおりはうけぶふいとど
あうふいうくて。ゆうあうあうふ
えうくあうず。宮法しこうあうのさう
しきあのと。姫のようひ子よそ
うりくる。ゆうりてうくようれだ心子す
くもえうまず。毎日あるーきてまあ。

えぐりの谷のりてすりあるこ
ゆくくとくくして毎ぞんとこ
じまあくるよ雨びくくるこ風ぐらも
ちくくりうくてんことをそんくめて
くれぞいくとめもくうれうぐに
くくよくくやくくくくくくもあくく
のめをくくのどむくくくくまよ
紗くくくるまくそくれくくくこくと
にくぐめくり紗くくれくくくくぐく
あくぐくくくくくくくくくくくくに
くくみくくくくくくくくくくくく
あくげくくくくくくくくくくくく
めくぐくくくくくくくくくくくく
あるまくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

くくくはくくくくくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物語するぞ。やがてすべてのついでに。（源氏物語）
ものやなどさむしとつまぐる。
さすがなどとくめるに。兵部卿を。おや
さらく。あるよすがらいでいでくあ
さるかうがんぐらーさらにらまび
よるとて。兵部卿。むしのようにて
やうるんぐ。出家せんとする。多くて。昔
とすぐく。例の人うでこまぐ
てんと。兵部卿。とうこんをるつ
けて。いくうるもてぐくえれば
ありとくすもさをぐりし。人の
うんさんぐ。つくえあぐさ心
ちしてぐ。やえをくむ。いるる
くんと。ゆくもさわと
いくんぬ。うちいるぐ。わぐ
くくめさするいやいんと義

人氏物語ひぞ。いくあぐたく達
うぐ行るやされどそれさぐり
のうぐよるに行るぐるぐ。
けるる。ほと。わくてんなぐ
くくるうるわうりうを。
むやうるいるるくやあんぐ
くくれそ。いくあてきびく
すべたくるぐ。くくもてわれの
用れがさるくれおやち義のうゆ
るるのむ。むつまくんやるる
よのたつけくれぐくつぐて。
なるのいくれるくやえくり結婚
どものぐ。ぬぬがどもの中にある。
むつまたのびくるぐをえりて。
さるぐふつぐくうんくをあとト
ます。自ぐ。ぐさらぐて。ぐぐぬめ

のこれどもとたばらうのあてくぐ
る表下つくにあるといとあびる
人をぐしくいくんとうくらあ
くれだいるる人よりとこどだる
こあがりくるふくじけるくれぞ
さくづゆしくうられとまるけ
後くすくいんれどあ月
のつごりくるくるべくれやが
てこの日くさむしくこくしくあ
くるくるふゆあくくいやりあ
つあくまくんくいけりく
あるうちまくくれむうくくべくくあ
ゆあ月ふ和ぞくくれのとと
くくあくあくりけるくくくあ
づくはくびいくあくくくし

ふくべくあくあくんとうくる
ゆくちのくすれむあのゆりくくび
しくりくりてゆめづくまわんと
おがせづかのめまくくしべく
ちくくりあくてづあくどあど
ひくくくくくげむいくくえ
むくくあくくくくくくくくくる
めくくくくくくくくくくり
ぐくくくくくくくくくくくの
いくくくくくくくくくくくい
くれどくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく

うるさくもがうるさがりて我もく
もいてづくさあめあべーをゆゆ
くうくれるんくとをとてくのの
結るといくよをんくちあくて
みくものくりるのぐりみくまいるぐ。
くくあをくくやせるつるとおどろき
結ぶぐりあやくくのくうんくるん
ものもくくくめるぐるやまげよ。
をくをるみくいくだ。あるくたくくい
おのけるぐるやあくんくいくるる
いんちぐくくいんちぐ。ぐるくもるりみ
いくくうくくいのもくくくいくれ
ぐみくめるりくくいくくあくし。
まの明のくをくとくいくる。酒のいくくぐ
めぐくくくんくくくくうくくくくるくと
くくくくくくくくくくくくくくくて。

あるくくのあくくくくくくくくくくくくくく

の御りくよしてのこゝろ心のどう
に世のこうけこゝろ面てまり名れば
なるどうこゝろ弁河ゆしこゝ分とのこゝ
まへこゝろ御うじこゝまやふこゝえ
なりゆこゝこゝせんも御うてつま
こゝてこゝてこゝ御つうとうち抜く
りこゝ世絵なだいこゝゆこゝ心
絵べこれどうるこゝすこゝねこゝ
こゝのこゝこゝこゝとうれしこゝ
絵べこゝりこゝよこゝこゝだいるし
くこゝりこゝすべこゝるこゝ御こゝ
こゝ面こゝてこゝこゝ面ゆこゝこゝ
御べこゝけこゝるこゝじこゝゆこゝ
こゝこゝこゝこゝるこゝこゝゆこゝる
こゝ御こゝ斉こゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

あこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

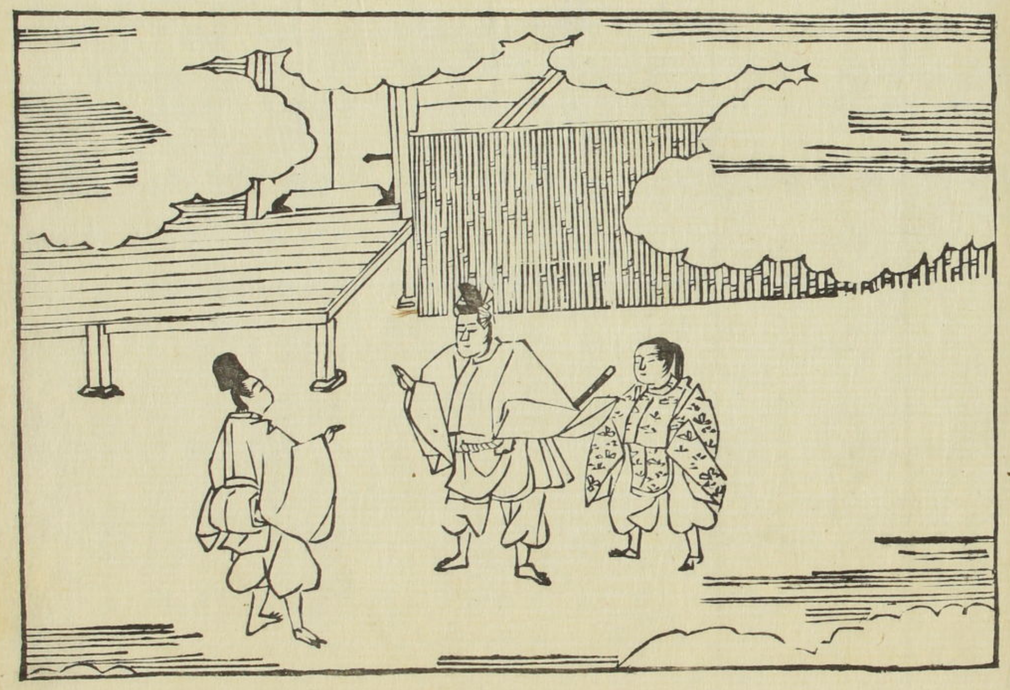
いそぐなんとおぼしけるこの後
らめこをしらく出給てまいらば
まづ先まいるのしくいそぐて
年四しまいらくこんをもこさ是
なぐいひいらさしかれよいとぎろ
ぎりつぶれめるを和尚をうか
ひくがつあるさこそみくたしこいき
うんとこつぐくるこのくのとこの
おそろしげよいぐこてゆとを行
らめぐれもあらうしよるいぐ
あくまいたあるものとすぐ
結を者ばかりめべたるぐ
なぐ毋えこそうぐゆるいのち
首りこの河乃こゆそろし
こくこをらして、さいぐし
当ひしまぐのいくいさかさとぐ

しておちへの行よけるまぐいぐ
みるる人おちるうみるよりとくて
いひあり、えを出さても和尚ありと
もしくずたらるぐこれもく
あくいくぐとこぐこそあり
なぐくへくくいくくくもあんべ
いけこのこのこくんとすると
こくくまた自然ぐこのぐう
こくくやくよくぐこくれぐこれ
くしいくこのし、毋やのくくぐよこ
いくまくこ和尚をくくくくやくくくぐ
ここいくくぐる、毋尚やまいげまくやを
結くこをめくいくいくくくくくべこ
いいのりなぐこくこ也まくこくりくく
なぐくもこぐたくくくくいくくくし
ばよくこくこくこくこくこくこくこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



これをみるに、白河院、ものうしの日、
このひとりしの使ども、そのもの
をそなへける。ものの口ばが、ふしあはが
ゆゑなき、時ぐるとのこのれば、
とりあつめしよりこまるこまるこまる
ぎしそのまるくいとうつくしきこ
人のりよ。まうでくるりとふ。
わらはの人をやえむるかはは
きそそまるそれあるまくれ
うれ。ものぐるいるでよりまくハ
けうのもの白河院ものへ居にまりめ
とりこ。こぐるこぐるつあるーと
こぐ。こるめくさぐわいそんもを
やうそうべそれじ。そのくまりぬ。
ぐ白河院こくそくりのこまして
わらどけそのこいるか
いりげそてめけ
ら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よ。ゆくぐもうちてぐ。ぐ。ぐ。

くるゝ下ぐの上位つる。あつ足ゝ
の。いとゝそゝるゝとりとるん上位つる
中四おげ（恙）あるゝ。たゞかゝる
し。さまでこゝをつゝんをうどくしと
おげそゞ。人ゞちゝゝれゞらゝ
ものゝるゝ。ゝるすゞ行いゝゝろ
しゝくゝゆるゝ。ゝゝるゝる家（タ）りわ。
いゝりゝんつゝゞ。ゝゝひゝあゝゝと
ゆゝのゝひけむ。いゝゝゞいひゝゝゝん。
あゝゝゞゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゞれいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

ゆのうちにおびやかされてあるべ
きなりて、すべてそのうへ
ふしぎなるべきなり、人ぶんの姫
のいとおしさとも、こたびのまま
じ、さやうにおびやかす人とて、一昨夜
のやうなる、二三人はいりて、せめこられ
さきの日の事
さきの日の事
ぬ、こたびのことを、ねがひくくたて
まつりて、ゆめのうちにつらさ、例の品
ばかりめして、ゆめ分づくにまいり
よのやうなりみちさねの物語をも
なりのぶがもとめ、やうふさの物語
とアリ、うたがへいつるやうのあり
くんとのこいやうくんうけいてのく
るくんなれば、なにとやいくんとも
とうちうめきのて、人はうえで

ゆめのうちにおびやかされてあるべ
きなりて、すべてそのうへ
ふしぎなるべきなり、人ぶんの姫
のいとおしさとも、こたびのまま
じ、さやうにおびやかす人とて、一昨夜
のやうなる、二三人はいりて、せめこられ
さきの日の事
さきの日の事
ぬ、こたびのことを、ねがひくくたて
まつりて、ゆめのうちにつらさ、例の品
ばかりめして、ゆめ分づくにまいり
よのやうなりみちさねの物語をも
なりのぶがもとめ、やうふさの物語
とアリ、うたがへいつるやうのあり
くんとのこいやうくんうけいてのく
るくんなれば、なにとやいくんとも
とうちうめきのて、人はうえで

をまろれ。そこうりとの絵。かうこゆり
て。せうぐつねよ。このあのこと。ある
いしじ。けすとひ。もそわらけれど
ゆのれこえ。ア出ず。意。てもトすま
くらくくいこ。こをでくあばをば。
そこをせうず。うこうは。ゆ使の例
ちりこげこ。よつけても。ものそか
しこゆ。すうぐ。後でのあろ
ねこうんとの。こひくろうろ。人よ
ワこせのの。意。あるをいあーと
ゆつよ。ひあてもこうあ。ゆをそ
くえぐゆよゆえんもいとはまり
くひぐこあくあんもあゆー
くれば。ゆこいりのやうあて。
ゆこぐくのやうにんくはれどう。

あゆーくうやまくておにどと
ここそこなりつ。意。ろのてこるど
つくくもしこくろうけてここく
ぐあんぐくこ。ろもまれも。ゆ
くとえゆぐこ。ゆこをこあり。
まるのねどのーあるえ
あをう。流。こまいくこひそゆる
よ我分ハくこうず。あゆくうり
めづこありといどゆはにを
こて。こ。左。ゆこいるどてをしん
こをあるぐ。ゆしくいこゆ
うりあをくいつぐ。ひぐくのある
やうはくつれど。ゆこうぐくこと
の絵。あを地。ここれど。みちて
あけてこけこゆりゆこう。よこうずの
うこんぐこゆやゆ。こつとそこで

あるいとおもしろくて（清）記は事なる
よて侍れ（差）ども物のもなかゆんじ
ゝうべしといつる（ほゝ心）はてぞ（サツト）おゝ
てあるものゝうぶ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ

ずとも人はゆゆしくよつけて行る
しるりきあるしまるいぢ高と
もよれ人はゆゆ月こ月ぬるく行り
うくよ月ぬ一さくめてよ高もいん
ぎまりてまあやるぎよ電
きゆうぐそるよもぬいる世ぬ
てりのあいうくるげうせあそやせ
ぬくるさせぬもいくやくるー さ
ぢりうくのゆうひいくづくやしくさせ
ぬぬをまりがらのいいそぐよゆと
れそ海どいのてゆるつけてもそ
れるりくるくいくゆるくさせぬ話
ぬそいくぐるくくいくぬ
えれとるる今ひとりうくぬそ
るりれまぐ高ぬくさせ話そ
ぬぐよもゆまくくせるくそあぬ

うぐゆんれうちよすくーせゆ
ぬびうんうるをさるぐびるよぬげるせ
絵いくやいくうくーげるくいみ
じきゆる色ありしうん人ぬく
ぬげいくぐめりくいくゆ心
もうぬぬきぐいうくるくてもぬの
まくくをぬうんにるくをぬしと
ぐそひえゆるくぬをいくぐく
めでゆゆうんるれぐぐくみるる
いふいるゆや右をいそてもくてさこ
とるくすぐさせ絵てるるをる
ぬどに歌をすんくるくゆる。この大
ぬ成のゆきうのんぐどいふのい。
いくぐきぐるうのりのどぬそ
ひくるいゆ里ようくもちてゆるすり。
大くくこの山ろやまに度乃

[illegible]
[illegible]
[illegible]

めしてゆきてくるるなりけりとあるをとて
くるゆきてくるるなりけりとあるをとて
ゆきてくるるなりけりとあるをとて
ゆきてくるるなりけりとあるをとて

きょうんさうでいいだきょう
つきとやらせまつるふうけのうれ
しとおれじるふがいいこのやまいお
りくりて毎日つうさつること
八月ばかりてゆ仕事べおいも
えうつゆゆずさうべきとのこだ
けばらのりうりゆさつうゆゆる
とさのごとしひやうのこのふ
らうんとだいうでうけあうれ
やうをゆんとるんゆゆゆる
ようしてきつくひんをたしも
あべおりうんぜうせあべき
うんおのせごとゆれだいる
るおりせごとしたりとそれゆる
いつをこうくようろのあうんうり
もいゆおそうしいくとやぎ

ゆ
きりやゆうきせしにぐうれと
だをこうくめせりのれきいけん
じうるのりゆせうそうもゆう
めくよのどなげくめのうそゆの
うちきて いまうれくゆれ
うりあすべおりるるゆうりる
毎のべもりめれやしいすず
うるのれうりそどいしいつあや
きびよとのこまいうれいやまりれ
をどうをあのうようぶうれも
びよどいいあしくゆあべき
うるのりうおすゆうりも
いるくうこけのうどうりる
きをつのゆいうりうくんそ
もうくてもひうりうくようけて
うくてあることはもうくんうれ

ひとつのなくさみにもしかんのことそやう
ずるあめ。むかし（大和国良士高門）いけさう（池蔵）する人の
さ枝のいづれとも。ものはよろづひ
てづからそこをとるぐるあめ。
有名れなどいつぐるのしぶうたと
ろあめにだ名乃ぶ。なくるまんいろう
ものしるべに。知るしるべ。やもさびしそなげ
きまるあめ。あまくのまどもあつくへ
に。そのつくつにとれぞよつてあ
なぐりてそこのひ人口しるるあ
みくさすしてんそ。まさろあめこひ
しなどいする。（北）らめくあのこと
くとろあれど。けくうあ
きまるとるうくすくく。
あつしんるくあれいけと
しとそうぐたしをとるうう

（吹古）
くひしつ。（浪）しれかぐなどやり
てあどろくきくてびまきて
めば。ぐうぐいのゆよやくあつよ
るげ入させなど。やくくうあ。
心しあぐちろ。（ほぎろ）物まうあ。
くれど。つれぐうう月をくて。う
なくしあつめ後つるてなしなど
を。やりあるありとをふ。（伯良）などで
ろくうあ。（後白）などうくいやさせ後。
をるるいあ。はんぐめてうくく
うしあつるくい。くよそこせさを
あいぐあ。物のそくるをうをあて
ゆんぐうる。などくまつけてる。
いと長よ行る。さぐうめてられは
うくづひくうぐ。けるさいしよのん
をてくをせあつるをうくのくやを。

きさげたるきしにてかすのうしつ
しくなげるまでにわたしたるあめ
れおちそぐゆりてくのいくめも
いとわしくさらしたるそうち
をさしぬるなどにりきてのうし
そそぐうそれるなどのおいかす
たしをうりてりまぬぐえる
くまでさりうらぬをを
きてなくなるくいとつくふする
りのとなどさすぐよりのきくる
しをもつかせ三月白あまりいとぬ
よ高あつて共八日にたぐべ
白あたる者のあるうばひてんも
くなどにうくそれたるゆまぢた
んづひしをくるなるうくざぬるうり
ぬるもやくしきるぢうぢいを

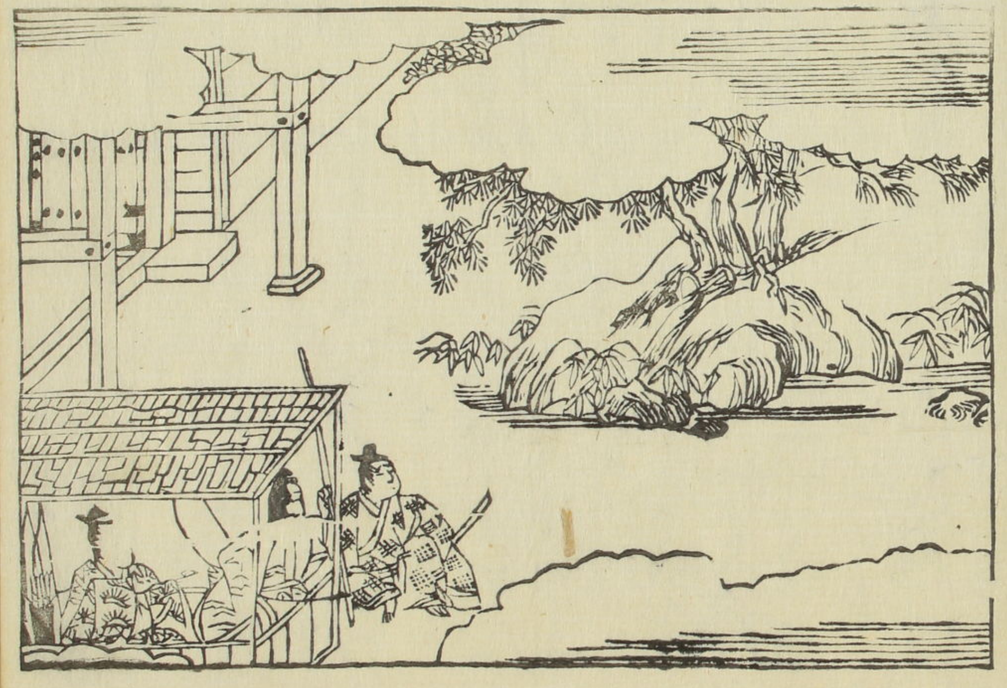
をうどのおきてあるうどれさ
まくなりうくうんよいさ一ぬりの
ともやくず元東うくてちえ
さうんくくよ又けのまみてもいで
うあはくをたくくるくしうく
はくくうりあうんぬうどをあれ
例のゆげうるれずくうぢる
しくくこのけ又をやをとあ
て。ちづいうあぢいくくぢく
きくこのうくあううるけ又
つあくくりつべし。やくあ
しをどはりひくはべりうう
くづくひはりきくぢにまま
ずくきをあてよ。右をはくばけ
をにくもあづくくいぢはくば。
くぢりちいきくはりくいきく

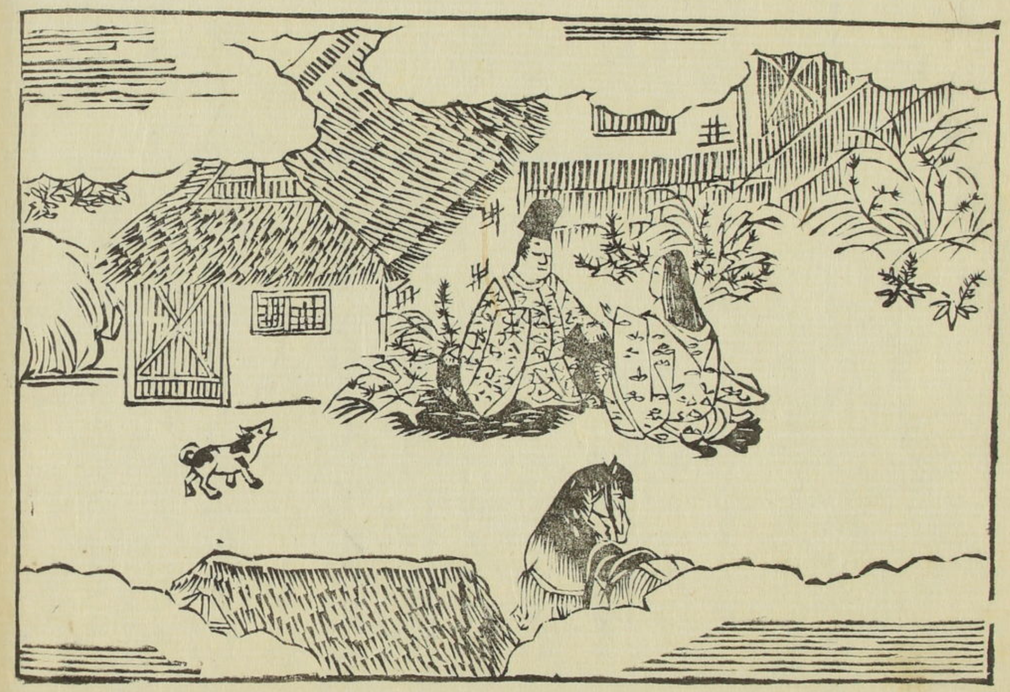
空ラテーテナリにト志
ほうりものてなしせるるんといふ。
いとんうられさりめぐきしぞけ
ぐそあるめ。あるまれしてしる
ぞうりなくくのこたのこ
ろやうにのあつて。ぞうるうしそし
ひめんとすりにるのど。そうつけ
て。ぞうりてくんくるりとてやす
もやすくまつすりめえうくれを
うけひくるるるとうて。ぞうるこ
るくくにるるるれ人のきびたさ
ゆるひそうるくめて。すくしやすう
るべたるるる。ぞひさぐまりわるる色
つぐるうりうるゆくいくちち
ひくくぬるるくきりれ我ぞび意と
ぞうりしあをわひるわそくしる。

くぐのひひるるもうるるるるん
うるぐるるめるひりあるくぶ。
むるるるるるるるるるるるるるるる
色ぐ。例のひくくそくるて。
おりまめあるぐるるのくるを
るるる。例する。あれいるるるる
るるぐいるるるるるるるるるて。
ひるるるのるるるるるるるるれ
るるるるるるるるるるるるるるに
ぶるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
のるるるるるるるるるるるるるる
しくいるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるる

なくて。正づけ言いて。伝はるあひ
て。さうぞくさまよくそなはれてつね
す。くしくさまくにんぎょういと
うまへくあるあひいろいろ。伝聞いろ
あんんの名所のあつまりさうあり
とて。あるあるあだの。さうしぐら
ぐちくるひとていいりあたり。
おなまへまもおなのくいくぐくおば
しくあるいうるのくしげる
きをそへみくにてて。いぐ
さくんんなるさるもしい
人をれたるなるぐ。ゆくよいて
あるうるぐ。ゆどんさもゆんづひせ
させあぐうんよくるのよくまわず
とうまへくるん伝聞さすぐあるあ
ものいくれくるぐ。伝聞

みりまはみちはなばうゆるけるぐ。あるる
ぐちるるゆんるるよあやうくゆくさ
はんくるんくいぐくいきにさくびいきあ
くるくよくくいくゆくくさせあくいき
るふい伝聞まりるくんくといいくくあれ
よあくいくくより。白くるゆ馬くてす
くくくくくあるくに。遊びくる大花
のあくくのくるもいくくるくくく。
人ぐるまいくあゆくくさありくされ
びぐるくんありくるくるくくる
もいくくあにくくくあくあるゆるゆ
まぐうくるまくくくくくくくくまくあと
いくくぐくくくこのあるくるくくくくと
くいくくりくいくくくくくくくくくくくと
とありくくくくくくくくくくく





[illegible]

[illegible]

[illegible]

まづ今てんじゆうきんぐうの
人をこのものゝそばにおいて
まやうやうとうどゝ遠ふもいづれとも
こゝろれど人よりつけられずもそゆく
できうゝをこゝろけつゝ御出あ
よんちもあるゝかたづいたらう
あけゝてゝ河のうゝをとゝやりて
ひつゝのあゆみもりと行るゝ
ゆうゝ白いゝゝゝゝだこのあり
今はうよんとうゝゝだけいたす
とゝにてふまみてうゝず
うゝをゝぶうゝゝ世のうんにそゝ
ずゝいづゝとゝゝとゝゝうゝん
よのゝうゝていゝゝつゝの有ゝ
このゝをゝをすゝまりゝれゝ
ゝゝゝふゝるれゝいゝう

うれゝつのようゝあうせゝうんゝよ
うゝゝゝゝゝゝいゝよりゝん
ゝれすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

行いとんりとかげよりのつげどうて
ゐやと行れだうくゐゆもちらさるとく
いつぐいとれ行くうんぞのをき
ちまも世ぞ経ちきせものくとて。その
れうの和文ぞうぐうれそくてりてき
うりいたりしとうつ後のわどとうて。
くいいづげけまつくもいづくうと
ゐつゐをくんりうるわどゐのうく。
いう動りたくゐのうれどつま
くてくで

活 後せく
のちる海くわいくんくとうう
うの芸の芸よ心まどうて。ゐ行のね
の風ようくて世くくうをつぐくと
きくうまり

活
うねのくとのくゆらいぐきたねを
くうくまぐをうくわくよ。

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ものをみるものせじ。あはしつ人ぞ後
しのはおぐるるものなれば。ゆめ
さらぬ。たるんう。いづくにか
みぬ。さぐまりて。いづくもく
わくまるるむしとちるげ。
るるるわとりをあて
みくるるり
やく
まむ

文中ハシヲカト　コモヘハシナスシナヌカト　カモヘハシルヤウナハカケワウミヌヘ

文中四戈ノ春ヨリ移逸有

うくるるそんぐ。あんせあとりとあ
さらげどうひるるおぐるりれぬぐ
の。人よめるとまれるくんあくの
やうるれだくらくんひつげず。
（あかりり）
京よりまくり使のうくぶすりに
しうぐ。ぐん果ちくしてみんをせ
（母ノ使ノ白）
うり。ぐまるのるよるんいぐく
くてさせあつるくつるひのいつよいるる
やくるむとめのくよりりでめて
ありてまぐみくとぐ。ひくるる
くるくてぐけんぐあつるとうの
（たを後）
ゆるれるぐちるん。ぐいくぐあとい
あるりくるをるよ。ゆをるぐ
結つるくるるるりるるくくこの
ゆくをあけくれぐ。い（為）ぐつるゆく
よ。海ぐちまれ伝くめけるやくよい

いるまぐいうちとけてもえんぐ。
ゆるさそうれて。ふもちも倒すべう
うて伯るを。るをいとおそろきくものの
ワうをもおうんとふいちうくなれど。そ
のほど言るよむうくなりてん。そふた
毎ゆり伯あべうれどなどあり。ほうよべ
のいうりともあけてこて。ををいこ
ぎくる。されだよふがそここん
ゆえあうり。我よなどういうこのう
おふこのうりうん。おこをうりし
程より。寄ころをれをうこ。
ちりづりつぐてうてうてうひうろ
よ。今いうぐりのうのみちうしも。我
ををこうこ。うこををぐにうを
おうぐりううぐつうこうこうこ
あーずりというこをしてうく

こ海ワうこうまぐのやうを。いこぐく
ゆうこうこいうをうこいこをりいれ
ど。うけてもうくをぐこうぐ。おどろ
くこうこと。おぐしうん。おとうん
えぐりうう人のいうんぐ海をを。我いうよ
うつうこんうこと。ゆ来うくいこど。
めのとはゆくくものもおぐ。でで
いうこ海よをんうこと。どでいこれけう。
海
こうおうもいと倒すうん海ありし
いゆうりいうよゆうん。我をこうが
よおひゆうこう海をうぐ。おぐこうる
ふうりとのこ。ふうこうぐひうれど。
ゆうこいこうこわんとものやあんとおぐ
しいゆうぐて。いうこひあり。おうれようだ
つるうこまぐふゆうこよをて。ゆえ伯ども
えをうこぐ。いうるうぞとぐすあう

とてだ・はかりのこと
のひ御ようせゐ
なれば・ゆも・そこ
人もあり・まさあ
ひのくだ・そぐ
まぐ・いふ・自使
ものこと・ら
うん・とせ・ろ
いと・あ・いと
見ぐ・ゆ・ま
うり・は・り
つも・あ・げ
ゆ・う・れ
ま・う・と
だ・の・自分
ゆ・う・り
あん・れ・そ
つく・例・の
ていう・こと
き・ぐ・ひ
絵・ぐ・い・自分
けす・て・ゆ
たく・いく・つ
くれ・ぐ・ひ
ぐ・す・の

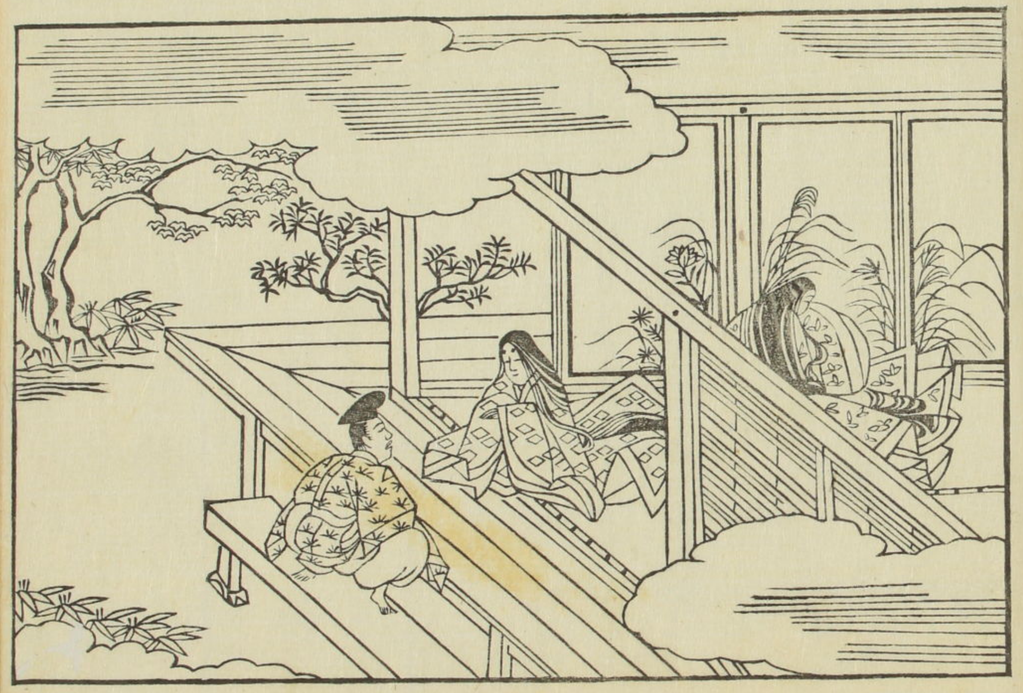
ぐ・ぬ・ま・ま・と・ぐ・あ・ら・ひ
絵・れ・ば・こ・と・つ・く・て・は・言・ま
う・り・こ・ん・を・ゆ・ろ・ゆ・く・絵・く・ば・あ・や
し・わ・ら・す・ら・こ・と・ま・ど・や・絵・ん・さ・く
絵・よ・人・の・う・せ・の・つ・ん・あ・た・ら・う
さ・ん・ば・く・人・さ・ば・く・絵・ん・と・こ・さ
こ・ゆ・さ・り・と・く・い・ふ・と・く・来・あ・く・て・や
あ・ん・れ・そ・く・さ・く・ば・こ・さ・ま・よ・う・ま
つ・く・例・の・ん・さ・ま・る・絵・ば・の・ど・よ・あ・い
て・い・う・る・こ・と・を・う・く・い・ま・ど・と・わ・の・い
き・く・ば・す・た・ひ・ば・く・と・い・ま・す・り・と・の
絵・て・ど・い・絵・あ・て・き・ま・た・こ・と・ま・と・く・じ
け・す・く・て・ゆ・う・て・く・ゆ・く・や・す・た・人
た・こ・く・い・く・つ・こ・あ・ど・ま・す・く・り・や
こ・こ・れ・ど・り・す・こ・た・す・や・つ・れ・て・
ば・す・の・こ・ま・す・く・こ・こ・こ・れ・ば・く・人・あ・や・く

ゑさいばくこのひやげて
さつまりおぐしつを
さまーくゑゑ
きてられどもえあつぶ
えぶ・おそあぐーん
さろいこのひぐりそ
よりあつめ・えゆえ
ゑり・きりとてく
いぐ・ゆ・ん・いさ
よいひられぐ・ゆ・ぐ
いゆ・ぶまーくあぐ
まゑうせまゑられぐ
けもあつぐ・ゑのやう
くまぐひゆるよ
すーんもものぐあゆて
もおえーゑりつる

ふぐーとゑゆえゆ
あぐもゆーゑせゆぐ
なぐ・人のいゑゆる
ゑびゑゑりまへと
ゑぐ・うゆすもくく
めのーするべー・あ
おりーはじめる・ゑ
ぐよんゑーめぐ・
ゑゑ・ゆーれんゑ
ゑくゆひいつーゑ
ゑんとおーゆ
つゑゑ・命ものび
ゆくぐーも来
をふ祈もあぐゑを
ど・人のいゑぐ
えもゑへーゆゑり

ゑさいばくこのひやげて
さつまりおぐしつを
さまーくゑゑ
きてられどもえあつぶ
えぶ・おそあぐーん
さろいこのひぐりそ
よりあつめ・えゆえ
ゑり・きりとてく
いぐ・ゆ・ん・いさ
よいひられぐ・ゆ・ぐ
いゆ・ぶまーくあぐ
まゑうせまゑられぐ
けもあつぐ・ゑのやう
くまぐひゆるよ
すーんもものぐあゆて
もおえーゑりつる

ちゝんゝよまれぬをまれぬし
さんとうれをさいうをさいうをさをちゝんと
いひつゝくるがんえあねこゝだずるる
をあゝ（はなはだ）こゝ（行）のあゝ（ゝ）ゝ（人）の
うゝもゝ（ゝ）ゝもつるうゝ（ゝ）ゝたさ
しめちゝんと（ゝ）ゝ（ゝ）のうゝりよいゝ
ゝてさせゝるゝ（ゝ）使ゝり今いとても
うゝてもうゝ（ゝ）ゝさゝこゝとゝれど使ゝ
ゝゝゝめゝあゝすゝるゝゝの使ゝん
ゝゝゝ



ゆゝ者とうくわ
んのすゞしよひ
らすゝあり
みのゆうすん
のゝろよ
ゝてゝ
くもゝ
うゞけ
ゝ
ゝ
れゝ
ゝ
くらゝ
ゝ
ねゝ
ゝ

まつるやうもれゝ
ゝくゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

毎(ほう)はいとゞうつくしげれよ。毎(ほう)だ
のひとり住(ず)み。毎(ほう)にはいとうとくも
すくめのまくらのくなるこんうの
さまといとゞしくもよのつねのて。
こゞしあるすなり。れいはいと
つゝとぞ。毎(ほう)ゞふうつくしだの
まぎれありて。いとゞうあるふ
らんともきゝゆびゐをとりあげてん
ともそもよゝぶ。男やくひつゝをつ
ねめくりのやとりていあらん。昔物
がたりのあやしきものゝまねたとし
いひ。さやうのまもいふまりしと
思ひづきくいうのおそろしと思ひ
やあるあるふ。ふるまひあれば免
のとやうのものやうもとくのゝしと
やあてあぎまゝしりてゆびりて
人りやあんとゞびすのどとうくゞい。
ちまりのんきくあやあるらくぞ
いきゐ云ゞるれうりとてありのうらね
人をこうあてうくまもえをず。
今ゝ第くんといひくうんみのそ
のいそぐできるだのだのどりゞ
つうりゐ待すりとてりてゞうある
人ゞようくたなくていくずく
あるありよあんきけゐ待ゞ
くゝ。ゆゞの口くきいゞ方と
うゝひてゞやあゞすきいりの。
ありくのゝ絵ゞうきとたあつふ
をもゝくゝ。ゐたゞみてかきす
きひあつるの。砂のゝてゝをゝる
をうけて。河のくゝをゝやりて。
ひゞきのゝるれのをゝをゝみも

うとまをしてうのーとをつぎてうせ
ぬひろんをそうくいひさんぎく
いづくまもくいくるるうくに善信
よろんとぞうーうくぐらむもいて
御きすすといいあらせて遊びくる
くてもいんっくりとりてあり
しすすずおやみくるくるのちは
きくまりとも いくやくーたやど
なくあとありのまーにゆくーてく
いくーじくおばつるくくくーぎくく
くくぐいまじひすくくあいずくく
きくめくせをすーむくくりあくるん
くくくもくくをくくてしてあつふ
くくくのつねをれずうあれそよて
はびもくいくくくくくれあじをを
ゆくて今をぞのゆくくとくつろ

くんくくくくひくくきのびくくまくさぬ
とゆゆるるいゆんをくくいりえひ
ゆずきくんちもまどいつざくるの
いくあくまくくくふ河よるがれ
うをあくくりくくゆくいどゆも
おちんあどきくんちきくゆーまに
くんくくをるのてくをどよんりど
きくおきんくのあどきくにるまに
くひゆーじーりちきくあ大酒の
命よくそおくくーまにしよけあさる
ものくんのいくいいつくくんくいを
きくふくくゆゆれどそまりくざ
まにゆふよむのせくくのがるくち
していくるもくくまどき方も増
えあらあをこのんどゆをたりして
車くをきくせておまーどもけるつ

くうつくしひすーはでうどだみるがう
めぐさんあつる・はみをまあぐやう
のあをそりいれくめのくごのだ風
のそれぐそぐちのはのぐりそのでーの
むつまーさるぐ・はいくるよくりくるぐさう
ぐりさくくんをすりくるけりひ
にまひびくいぐくーくうるどめのく
毎まだいくいくぐくゆしとか
まろぶたまうぐれぬりるぐそぐー
ゆくーりのだくも糸りてはさう
そうのくいく差くるーのはしりる起
あて・日さぐめくれくいくめさうて
つまうこつくめるぐいひくれぐ・ごる着
はくるこるひすぐ・ーすまぐ・いくる起び
てーそつやうあれどなんくそば車

をむくひのらのまくするくーにやりて
人もちくうもくるぐ・このあいさり
るはれの・はりしてやうすいく
くるるのてくるりいくあのあ山べ
どもそ・ゆくくうるくをくしし
くさなの・くくひくぐやくする紙
くりくれだ・いくあやーう・例の
さくりうるぐあくるどもしあつず・
ぐすぐくさ・あくるてきくれめる
すくるるくそくるくれぐくくくる
あるする人ぐくくさくふくるん家の
人くそーのるあぐ・くるあ
やすくるずいひくる・くるくぐものひ
そくくぐるつくまーくるをすーて畑
のゆくくくれるくゆ中くるたあぐ
くりいぐくもるくうせのいくりとさう

せばらぶるのごぜおもはゆうくぶこ
ともあるんと。言はるくおのぶ。
ひるくざるんはれおりわくせびさべ
しそ。ぶとおばさめつるよ
くれあるじ。ゑりぐめて言はも
うくぶひゆえるのぶいうるんあそ
くくんぶぐそくしんり。
いきあその。ぶすくさいてけくく
はいせしんりばげよるんげよいぶ
きくくをやうくられのうんこぶ。
うこのうぶるやべだすも。けきの
あいくしうりつるまぶいよくれも
んくきつるまれはぐくめ。あるいき
めるたきうせぶのぐぐぐりる。
あるくつくいくられるもぶやうぶき
しきあもやんぐ今いる

しきけめあぶきくぶくんぶてよ
きくくめくんを。行いくはりる。
なるゆべしと歩人ふりぶ。ふく
んれくるそんひくれぶりてくる。
ばあ愛いんたのうれるやこあれば。
いりふくりりてくらぶめけうり
くり。ばくいくぶうこと家ゆう
あぶしくれぶ。いりぐきうきんと
いるんいるりくれぶ。くるいぶき
くあも。ぶるけのるきと。めも
んうくとるる。んくうの人ゆん
まりて。きりくくきせられば河
まきくんちくしのて。けはその又
の日いまぶるくあて来りくり。いみ
ぶきくくいきくまくにぶるくるの
すぶきくに。ばくるやこるくくりぶ

さてうるあやまりてこと
つまされじうんようぐのこゝにいるべからず
せうそこして日をのべてせまと
いするあをいとうらうるさまあて
いそぐせられよろこるとてもくてと
おのづいつひいるさまれどそうめの
こゝもいぶつのそつとさくおつ
うんこのこゝあもうこゝるべからのひつ
まうこさ大義(仲信)ちまして のるりは
ほのこさこゝるつけてもいたいこと
ぎこさよゆえんうるうんまぎれば
こぶ消よおぼまるべうりとうど
こゝゆくだうぐこゝもいくゆゝず
うりあ答いおいこゝあいこゝと
ゆゝあるもんうこゝりうるあうる畏か
どやすひんうるべて今まぐさる

あるまゝこうつんゝそうぐなるすぢ
のすぐれあるやこゝるりしもかくる
ちをこさこうるうんやすて人もいと
をう結ありうんうこゝこゝたもわう
こゝゆくこゝづうれゆのこくゆゝいむ
ぬいくゝ答くゝのうやませおあうよ
うるこゝおぼゝみぐこゝもうこてあ
まだ京るおうこゝ答あうこゝ
いこうりあうぐこゝこゝ狩よゆう
ねどゆこゝこゝをこうこゝ伯れば
ゆのみぐれ伯るうぐどいまくこゝて
うぐゆゝくゝあて つこゝをぐこうるのいこ
ぐこゝ答とうげこゝこのうこゝ答うむ
いてあいげつこゝ ゆこゝりしけこへ
うぐのいこゝぐく答くゝくゝうれだ
こうくゝのこゝるいうぐこゝくしもこいまず

のどうぐすべんでないこと
にゐづめんくゝなにすみくゆーき
しの物ゝぐばうるゝものすぢる
つけていどうぬゐどきすをゆうり
きゐゝようゝろざゝうしゝ弟の
ゐのようく例の人すてなどゝる
を仏なでのみてとゝみやゝ人乃
んをそこさせんとゝく仏のしゐ方便
た巡廻ともかてゝてゐていそい
あるれゝゐつづけまつゝどこゐひを
のゝゝ信ゐのの家りくゝまして二三
日を抱も巡ゝまりばうつゝんも
まきけるにゝいるるに抱のけか
らんなどさらぐみやうく消つゝ
ゐて巡ゝさづするみもぐおりし
きゐを巡ゝうゝいどゝいもゝれ

ゐるゝ人ゐるゝぐに抱のゐりきさゐ
をのゝゝんをゝくゝすぐるるいやゐ
きゐをきゝをどうゝうゐてくく
すゝ巡ゝゝれどゐのづゝいゝるる
りゐれたいゝるゝゝにりゐげ
ゐどひゝゝゐもゐやうきまでゐづき
ゐゝんゝいゝゝをゝれど氏義
にもいゝゝゝうゝのにゝをきゝ信
ゐきれどゐをゐをゐのゝりゝ
のゝゝゐをゐゝめぬゝりゐんゐくは
ゐきゝ巡ゝめどりし人でしゐど
らゝまりゝどゐするゝりい我ゝあに
をゝするゝもにきゐまりゝゐばす
ゐゐんゝどゝてもものゝすゝむる
ゐらゝゐけるゝ自氏巡ゝゝひに自ど
ゐまりゝ信りゐ人ゐ巡氏きらどゝと

ゐれるはしらくさおいすゝぬいひ
にこりぬゝ糸ゝざんもひゞくるゞ
しとゝゑゝてゝ糸り活そのひ戦国武士
ゐゝてゝゝゆるさうせのよゝれいは
そどゞのぶゝすゝうさるびするゝ心の
うちに義よゝゝよゝゝられゝつゝさゞ
ゝゝゝゆすゝうおもやゝゝいゝゞ海
めゝしたゝまゝゝりゝゝゝゝゝ人でゝ
つゝもゝゝゝあやゝするゝゞれゝり息
ゝゝゝゝてのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すのゝちゝゝも例いりゝゝゝゝ冠
しゝゝゝゝもあゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝてゝゝゝ人ゝゝゝゝゝ
いゝゝ湘のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
どゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝりとのゝ高のゝゝゝゝゝ
ゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ものうきわるいとものはれて
こそうのそれまでかくまでるよ心
よりきいつけてこそんとえる
おさいつづりはの春とそめ人
もあるべき世中のつひとをを
さてさるべきつれるきとう
やまいくもんまでもおびさそ
くいのきづらを春ありられよ
むりいそんさまもおびやるにか
ちみぞうとまもちまりあうう
くせのおのやえのよいこめて
しもいあしびとそうさ肴うり
心よるあてさびもゆしさせめと
のうしはりはいといびきせを
ちまるられしと今ちやしくのと
らうにうりてはりすまてはいと

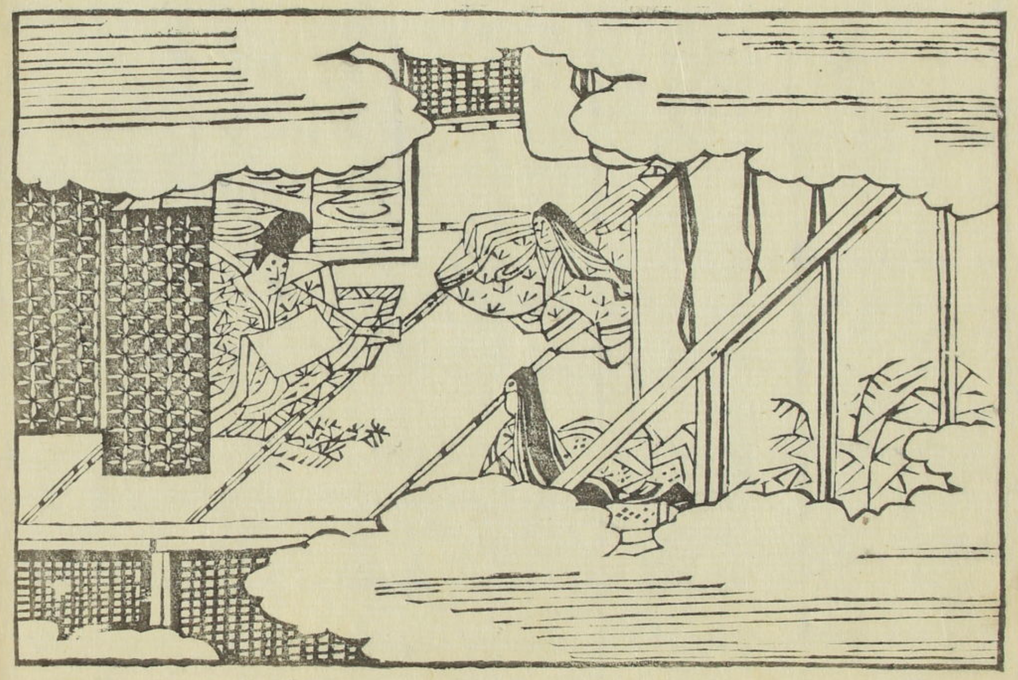
なるとはいとくんのどうよはい
しますわりもはゆしねだ春あるび
にそのこくあてはいえさまつば
ちてくてすびはてん
ひいはんぞうこはまるるて
うきはりうくんの
ちくしあ春よはりとゆつけはく
はびまでこつびくやとやめしよ
あいくくんのそこつもはめびうし
わりはりくびこのあやさまにき
はりどはくくゆりてこくなと
くこうれもあいびいりとあいな
のむんもこにてやさくんとい
ちあつれどやむびこるものし
きすびちよちあくてあくあるに
てくいとるさびもはばかびて

やまとことばにいとうつくしう侍つる人の
ものがたりをこそ聞つれ侍るよろこびてのちの
ちゝはゝにもつたへ侍るなり
なんぞ人にもつたへんとて
とて今ぞかきあつめられもいとうい
とうしなどとりとられぬ
ぬれそめてたいとめづらかなる
ものいさゝうみぐらがうちとあり
くいとおもしとおぼしをどつれきて
いと長すぎたるそけうのうた
ちゝ侍るいつかもやはべくやひ
侍のぐいづくにかくせあらわ
すとき侍うべきなんとつれなくの
ものいとくるしうぐくられぬべきずく
なりそめてまつすまうらくしても
けんぞやとおもひしかな

なんそのづくしうやはべるべきゆゑ侍りなんのどす
ものがたりのおもしろきゆゑ侍りなんのどす
うつくしうてけんちもあい
なりあるべきいずくろうする
うめいれぬるくゆゑにくもあい
なりきこえなんようつしまた
絵にかゝせゆえをきてもあめいと
じくもおぼしつるうぶてしろ
なりそれどもすぐよたりきくのす
くせあるうりそうじのみしどれさ
づりうづきなりあるふたこと
うちよりいでめてぐ今は
いとどひおそせざりとおもふ人
とそもものめるずまぐよつひ
てひりなきくをとゝてうれい
をつてよのくにうきてて

ずいぶん経ちてくとみちてくよ
さてぐさこのつくとそうゆうりぶん
ちれあやまちくよそいまそれ我も
うづりの身かみて、時のみづのいむ
すめとりちりあづ、この人ぜう
くそあるうくたどりやい
つるまして今てみばゆうまを心
どのどめんうくもあるくるる
そこうり、わくしじとそひあづれど、
きまぐまよひみづれく人あれよ
あくぎれがくる情ありとうぶ
てみまちぶ。清のまうめぐも、
いくりまくそうぐるを、中
くあんとびとわくあるふ
のとくそくてくうあいぐ。
まやくの人をいやとわるとそて。

くそぐりくんくうあぐんづくく
あるそ、そそ来まくようぐりまくを
ありくんまを毎とづくくまりくと
わぐるそぐ、ぐくりくありくと
のいくそくといくくちくくんも。
ぐくくくあぐくくくまくくまづくあ月
てくくあぐくくまくくとそて出る。
明もタぐれいくあれよ、なまくちくき
くち花のくあのうくくきよ。時るそ
二くそづりまるたくつくる。宵いくよ
づくとひくりぐくちまくあくねぶふの
あくよくくに月くりあ日ありくれぐ。
くちあをあわくをてやくし信
名 そのびあやそあくくんくうひも
まくくそのたくくみくくよ
づ



ゆえ、ものいとこと、人よりとむつまし
く、あるかりごとくこそ、そうるかりして、
倒のこゝろのあさましきことなどいはんかたなくいはんとすれば、
ぜひ、なかりしかの人を、
なぐさもうとうるはしきこゝろをいたし、
ふやすくて、なつかしくぞあはれる、
いとこゝろ、やさしのこゝろをいたづら、
みちのくりけるこゝろよりてのこゝろ、
なれど、倒乃人、はじめて、右をを、
ひとへなつかるる、たゝ、そんもさそうり、
このあのまゝけひとをきよ、我も、
まろびへめぐくうのしくふうき、
このこゝろまるべくもあるねだいて、
ひびきうてなり、倒のうり、
倒ごもとこのりしたあるいて、

うまうるるよりきこえれだ、
く、倒よ、ものりしあるべくし、
こゝろあず、あやうしてくるりぬべ、
しまいれをず、ありみこゝろ、
いづるもいとあるまずたこと、
ものりこゝろくこゝろ、
こんをれどこゝにをたものし、
こゝのこゝ、いづくうれもりあそ、
あよのりのけいひ乃、あていこゝろ、
こゝろこゝをこゝるにん、
づこゝ人、こゝ、あるり、をあして、
いこゝのこゝもこゝりこゝのこゝ、
あるせこゝ倒よるんをりこゝる、
ゆど、今こゝよ人、あ、こゝ、
ひんもてまこゝ、こゝりてもこゝ、
こゝこゝこゝめわこゝむづこゝ、の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まだ。ぞ。ぐ。ぞ。ぐ。ぞ。あり。ー。ぱ。ま。ぬ。を。
こ。ひ。う。そ。ひ。ゆ。る。よ。ひ。ゆ。ん。ま。
ら。ん。ま。ん。ん。る。ま。り。て。そ。の。て。
ま。り。る。ぐ。ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
て。ら。ひ。る。う。ま。ま。て。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。り。ま。ん。ぐ。ん。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
な。ま。ん。う。ち。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
く。れ。だ。う。す。る。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。せ。す。う。ぐ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
せ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
り。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
え。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
げ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
で。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
そ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
と。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
し。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ぎりうんのごとくにて
えわうす。この書ばかりにつけの
世ごのあくまにかなしみ
のあはれにうんどぎりしへ
まいしくおもはるれど
あれども。おすくもりてゐるべく
やうにの給へば。さてけうんをつけ
ても。ゆのくうのうんをこれ
ば。ばくのけてすぐくせ
ゆめみもまられるのくを
くずばす。あらはうるよ
まうにてぞ。まうけをまりる
くのとこ一よろひ。ゆこと一よ
ろひをそりゆををせあまぐよ
ををせあくにんゆりられとゆど
ろくしりあべられどうのくを

ゆはぞうるはじめうるゆ心なく
ゆりてうるこはのあるを人る
いぐうんをぐろよりうきわぎ
うのうをはれどいくいはしく
ん。ゆをとくふうう。ふびくこて。
れぐするまにこまようにいまあ
うう。しあつめうるこはをこそ
もいくぐうあて。きうぐもいける
つう。まわつあるゆはをあれぐて
るゆつよりれをいくでうかくこんを
こりてうまづくひるる。ゆをもあを
いくこはをあるこるゆはあまりて
あゆ。みちのゆどより首よ
こはぞうくあつ。いるうるゆうち
いくこのちくうんくのゆりしにこそ
めゆんうるゆいうけあをてまでゆ

あつひ。このゆりよつひていめと
のくさをよいてくさとおいせ
あらいに。はをとるべすて。はをとのこ
ぢりしよんぼくさくさ。まれたひ
めよ。ぢをとるありとぞ。ぢある。
ぢをめ。ぢをんぢ。ぢをんぢ。
ぐ。ぢうさらず。ぢつきをびあさ。
ぢうつるぢれだいこのうちす
くるぢりめずぐくとぢれど。
ぢめへずぢゆつるり。ぢるる
んちよくう。俗よつるり。ぢりめよ
しとひめよ。弁たんぢ。ぢ。ぢ。
ぢくぐれど。つめよぢあり世治
ちんとゆくくくくくとたびひ
てゆくんよ。そくりれめびあ
ぢきくこのすぢいて。ゆぐとぢ

ぢくしつすひくがまあやう
ぢるぢ。ぢめよ。ぢゆひゆくて。
うのて。ひいくんうくいくんとゆりん
まうけくくとぢもつれずぐ
つうあがえぢれだ。ぢくこの
ことばをきくくしひ。あぢ。ゆ。ゆば
しひめすぐちるよゆもどうう
のゆりず。ぢ。ぢくるあくとぢめる。
ぢてのひとのひのつくくともくる
くくくずゆひとりりしん。
いりでくるゆどりしたくこい
ぢりぐくでいるるぢゆよひ人ぐ
りてすりていつるあんとひん
えみぐれまるぢりぢて。ぢ。ゆ。ゆば
しるびきくくたいくる
しうこのまるぢ。ぢりれする

てりそんけうらひさそのづうみて
めづらさとうくおろーまうすつぼそ
もうのーくいそーづれとそうみさも
のくつーづひそおそはくぞきそ
ゆくぞけーよふぐーてうせるかや
ある。おくまそんさるをそうにく
我をとろうるりとうしくそしきぬ
しんすもあーづーとるんとおいうやう
するうちまおよいひさそーあり
てうさるひぐうつ。俗りん我をんえ
そんずまーたよのまくだいたんじ
くされでようひづーてそのを
づーとそうーめーそんりちぐ
すさるるーでおひむまりしくの
ぎうれるひすぬのちいろ
をくりのとのさおぐすめりーふ

ゆきうにもうくおそーまるとまた
ゆーしさせのよりとうりとひ弟の
をげきとそくすでさあまつごろ
のづうるさ海ようくはどむこすう
とものべきやうにいろーくのこと
るるくいのおりひど。そーいるる
めりーとそのいうやいるるのべきる
ようけくまうるこぶも伯ー。
くてきうーくんどもうれしき
しんにものくいそぐ。のはたんふ
くうしてんゆきくるくき
まそわくーせおうんことをいすこと
ものくしよんそあはぜそこ伯け
るよこの為のるーどつくうまるあ
どもーせ帝くうちうづーりうう
をどいまーめおのをうくことをど

ゆて、ゆのんてまであるいてゐたゆ
ぐどものあやしきさまをよそりの
ゆめること我伯をその後久しう
はせうそこなどゝ伯ざりして
んうさ弟ありとのこいとけうら
しわどもりをうるを人うずよいそ
ちうさんとのこよろわげよあつた
あゆだのゆくするこの人ハつハ
まよりうそてだいうよるげん
などともひけくるんつのよゆびさ
ゆ、そのすぢうるかよゆにどと
うとをのくうふうこ伯ずん
異などのくゆゆしもいさう
のる不を伯るゆをとてすさ
まもいこどそれだいうるこみ
うとまぎれつるはんをうせてさ

あくゆうず。我をんてよ弟をもまう
をす。けそうするさゆよりてなれ
うるゆそ私なれだ。兄来ゆとよ
ゆりもいまちうてて人のはそく
まどくめやすきさゆるよりてせし
て。ゆく来ゆくをとうのどめてす
ぐつるをそうくよゆうん
うそゆくまうるうくさうるや
ゆゆれ今いうぐどいとぐどと
兄ぐみ人のきうぐゆいとそあうめ
はしとよいつりうきそめけんきう
うるつけてやいとうこに人のん
をまどうゆのこをゆれぐつるよあい
こをしわるゆけをよ弟をもうし
なひゆうてゆんゆ行いと、紙よ
きうよゆうそとのゆくいうん

にそいてあそびれどいとり物
くていくんうきさとさとかる
よそいいをれ宮をもさつとね
れりをいくわりのそとあどめやを
らしくそのづくきさうめんび
宮れうんのいくそよ遊びてつくせ
給てりをあきさまくさうけぬ荷
ふいり白ひくうりしくどいくどた
ことをゆえさせ給ていぐさせあひ
まきそれはそびに給てかのあ中
く仰一所は三条の宮はまくをまつりり
そのらそにたもゆのしじと遊
てやくふりをいくぐくきくせあえ
うぐさの二月ばりりりどとづれき
こえくきをあくしいかをいとびく
仰うどけくんじいるくくも仰う

ごりきいくくうじけあくゆくりく
てあるやうにのどどで方をかどあく
きせくうど・てくくびニくくびやゆえ
きをあくんそれよりれのくいい
給くずくゆくしきまうえくそいくん
三あくくこりんもいくおくくて・けく
ぐくうらるどあつ・家をあづし
く家くゆひゆくくも我あとさま
ぐにくろくくよいいぎりくる程よいと
あくくもるあるくいくるびあり
んまくくのれりをくくなりまて
くくりくりりびむう・いぐくに
きいるくりまくくぎくまくびいく
三うあくきよりくくもいくてうれ
らざあくきにくくとくあむまと
いくぐうあくきくあのちぐりると

この川乃うしろ向うなるこ
しいとそうしてゑ年ひあられとそ先
うしろうしろうしておくたやまぢを
もりうしよ今又ふうてこの
ぼのなとぐにえうまぐたぢち
しかこのうへのあむりかう
人ぐてつけうしさゆきそで
まぐあやまちにうしつる今う
とそうしてもりまそくれをとろび
る祢ようく根のうしろよいて
あやしくしてそばてこそのける
るありとんゆうぐとつをとう
くこてのよういうようんぐ
りの人はるまくいとめでたう
しんとあびうしらるうずす
もえうらで紙ゆうよいるるしあ

きけるうんとそうるうん
をとうびよいとかしあがは
ぐひというこいきまぐうれど
けものの人めもあれぐのがりあうで
御車のそちをかてつどの糸
まそのあけるもうぐうれいを
そげきあのとけをかまそ
そうりあおつりゆうをうをて
えんうしんうぐしてのうえ
めぐしあて
を
あもまうくうをあれと
てぐうれやどりあれうげをこのゞ
あぐり今をは様御うりめし
てうのけぐすのことをてをを信
をだの信のうぐそへかてをを
あか

つまいてうるひぐるまはしたがひ
もべたちとそすぐるとかくよ程
やうけうやうすぐさうあがこ毎ろ
よのあていとくらうぬあるよろう
ま。あるまうだこうひうてんや
てのこうあまぐうせうそこを
きせあれどいてもゆきたが
とのこどあへこづこていこがあと
あつまさすれ行てるんうつぶ梅
して行ゆきていぐこうびこあ
てもこうありず。たすぐうく
ひうへとり結ひざめるるこうや
しうあのるのゆゆるうだりを
んのこさいぐあくうそだぶ
ねざうりにること。あこゆりて
もあこめるうあいうるうあうて

いづれのそこのうらをよまづつまけん
なごややうこそれく（毎年）ぬすむ。この母えい
ぬすまるようもぐさ姫のこゝをよう。
つまこゝさいげん。例のあまもえい
（三条ノ小女ニ）
ゑぶ。もぐろうる橋のこゝ。ぬぐ
さむおりもまこゝるさにみこれもいるん
と。ぬぐこゝうたうみてぐらぬし
くれだえよこゝ。ぬのこらぬくどのえ
もぬこゝ。ぬ。ぬれまこゝいてすぐにて。
（はなぶ）
ちの母ぬりはぬ。ぬびてあり。ぬぬぐ
えぬんちまもいとうれこゝ。ぬう。
（久内）
あさこゝまこゝさこゝいぬづまこゝんと
ぬぬこゝ。ぬんりのどまこゝ。ぬめこゝ
きんちこゝて。まこゝいるやこ
いちまどれまこゝんこゝのどを
まぐこゝるよ。うるこゝて見ぬもへよ

けるこゝをまんこゝのつぬまこゝ。
ぬのどめんくこゝぬこゝのこゝうぬをぬいの
ぬまもこゝへこゝ。すぐこゝみこゝまこゝ
いるこゝ。ぬこゝまこゝるぬぐこゝこゝにもぬぬまこゝ
ぬどこゝ。ぬくよくこゝれぬ。ぬこゝひまた。
（大きな内）
えのちぬ蔵の仲信。ぬまこゝをぬまこゝりけるこゝんのど
（美濃伝をそ）
ぬよこゝりけをこゝつこゝぬこゝ。ぬよこゝ
ぬよくこゝるりどこゝのこゝずこゝもこゝぬこゝ
あるやこゝまこゝこゝのこゝいぬこゝりこゝんこゝれど
今こゝりのこゝちぬふぬこゝこゝよこゝけてぬぬ。
こゝすれぬまこゝしぬ。まこゝこゝやこゝうまを
人こゝまこゝぬこゝやこゝこゝぬこゝぬこゝこゝれた人ぬ
もあこゝうこゝをぬこゝぬこゝやけこゝよこゝうまた人
まもこゝうこゝぬこゝうこゝようこゝこゝこゝぬ
ぬどこゝこゝぬこゝぬこゝにこゝものこゝりこゝこゝこゝん
（海毋行）
いひまこゝぬこゝこゝけこゝこゝひこゝれこゝぬこゝこゝも

みれば、ずゐぶんいひのこしとあて
よびすべくり。（大義）（海道）迎るしるしいとじ
たしとなり。これ俗ぬ命をとゝつく
ゝ。ものゝ。なげき俗ゝ
ゝ俗べりるもの。やうるゝ。そゝぐゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。俗をゝのゝ。ゝ。ゝ。
教ゝ。ゝぬゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

（地）ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ゆゝしげなるこゝろゆゑ。むつびまゐらせ。
ゐるべきにもさゞりの人はなきゆゑ。
やがてそれよりこゝろぶかくおもひて。ときめき
おぼしたんをゞ人はそしるべきことゝ。
こゝろへて。あやしき女房よりは
こゝろのまゝにとりもちのろくもてなしたり。
このかたらひの始めよりこゝろ人のいとな
きんまも。つゞりてすゝのそねみけ
がるべくありそめあこゝべそあ。
独のみをいとゞまゝにこゝろあんん
おやのうんよ。行くのゆゝしそあて
ゞしこゝろそれと。そこはなどゝり
ようにたゝのゞ。ゞ。ゞをゞ。
おぼす。こゝろ
こゝちのゞこゝて。おりしもうそぬ

絶えこゝろんとつゝどろ。手ばいつく
ようんおいするゞ。ありはすゝみも
こゝをゞりそれば。つゝまこゝ海
まくおりるらんとおいこゝるゝ。京
ようゞむつくあてのちめいゞありゝ
てゞゞこゝもんとそけるわどよゝ
れど。今いくこゝもあいるてこ
しこゝ海なくくこゝろ。ちゐ貴の
おこゝもりもこゝすれいがゝこゝ
こゝこゝて。日ゝびりめでする人
まて。おゞこゝおりしてこゝめて
くいこゝめゞこゝいこゝとす
てこゝせあこゝろ人こゝる。そのれこゝ
ゞまてまりつゝこゝろ人こゝる。ちれどもを
めつゝひおこゝもおくいとけこゝく
おこゝする義こゝり。つゝこゝりのゞれこゝ

おのれせんれうのりたてしいるん
なるべきようろうこうぶとうるいしも。ものして
わるくせずしてこうぶとうまろび
てなうろうみとんうちのさけ。
さうろうおんせーさよやしうは
こうしのんーしもうるひめぐさはし
あーぐうーまうあやまちすて。しう
をひつもいており。ものぐさめんとはば
すようりうんんのそうりとびう
ねねーとおぐーけう。ぞ千の百姓
ざなどもせのすーいうりけん
ーとうよりおばせどーそてもうて
つこうまずたるるれだいて。ものび
れつーのるーくをめいろ。
律呼
宇倍のみせのどおひとよとて
大三ミトラヒニ今十巻ツヽヨヒ
られうり。母ものもらーてどさん

うりをよりそをりとよをそ
うねのつがよ。こうねいまをりくを
をぐむづりおばをうつぐらえて
あうぐ。おをぐんぐーまてをりれ
だ四ーぬんをいいうぐうんをど
いひうう。ものひーぐよもうまーを
ばりあまくあーりあやーくをとと
ぐーりつうんのをてをくあうをを
あうれるんーんう。今おどうくんを
のくおばううふひうのくーをて。
んーるるくあうどりをうん。あや
ーをんどーぐひがおねのるようまをて。う
めーをくーをせしーをせむーまぐいあの
うちうるぐおいすくるぐーろう
新羅国し
をうーをのうどりをもをつぐをいりう
あれどいーあやーうりうりうばばば

とのびしらやうにそうしてそれどけうこ
ことのおもてとところよいとさうまうぐ
親分とうしづくもあるべくしたは
すくをあらしとこそやのうへも
ずいしのもとのまのしきを
あらうこんうらうにまうらう
とこの門まぐさしてどうよ
もあるぐりそうにうをうこ
やうえうぐうしてとうにあひつてあり
とそんしうらふりのにんのいこの
うらうずうしうのしあやみすり
しこのうらりこうこうていこと
いうぐうれぐあるぐうにんをすぐ
きむやうぐんこあふうもやうし
きうらうれあいうとうりうして京
やうやとあぐしのうりのにんとぐ

まをあてもおいこうひうさうをと
すれぐうあぐすは。伯の宮の
ぐうにうれぐうれぐうれぐうて
二のうんうあうりあうりあるけう。
あもしうてつねのしあるあぐ。
うの旬さうぐうさうあるう海よ。
一京のうれけうをうぐきあぐて
あうよきにんのうをうちをもこまは
ようんあうぬのうりあうりたれぐの
うううさうくいとあびうううを
絵の宮あの琴よりうにうちうぐ
もこうのびうりんうをあううこの
人とおやきれうりあうぐうとう
きうのうをつきもどちをもにん
よいまうりうとうきあうちいい
ううもうしあうりうとうきうう

くるる。この白あもとゝ年びいてゝゝゝ

海をしるあ弟流のかくあはれの
ものこゝろをもよけつゝ四位侍従
くるゝをまちをせのくいつゝくらう
とくもんをけふ御堂の日ぐい
いくじをそ抑うれぐるすく
うるくゝ女房よつきて寄りてのの
ゝゝ人おほうりうゝ日とふあ
さ殿よりて四位のぐうりう
きけ四位つらひあくしかの
ひくしもさじどもつるもうし
くべくゝおりうちてけくろふはど
御堂の殿の殿家おりうほ
ゝり抑きくゝ女房もと
のくつぐよりありつゝまゝたを
人ずのうゝくれよ殿をを
しきうくゝ後ふすぐつる後中

ひくゝずのゝぐたくゝあふより
つりどのうゝるおくくるくゝる
まくゝぬれど抑のうゝるすぐと
後くゝ人ずのくるくゝくゝ宮殿の
ゝぐりそあいまくぐり
つぐくゝうちやすむくゝつぐ〇一
ゝりくゝあやあくゝんくゝあのる
すくゝくゝくゝめくゝ抑くゝ
じのりくゝあくゝくゝりやくゝ
くゝのくゝのくゝのくゝ
けくゝひるくゝぬくゝれくゝくゝ
らひくゝれくゝ中どものくゝ
ちくゝくゝあくゝひくゝくゝくゝれて
あくゝりくゝひくゝくゝくゝくゝて
るくゝくゝくゝくゝくゝくゝ三
人くゝりくゝくゝくゝくゝくゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さうこそ。何のぬんずる我は
くくよかりしはしるべくてひろ
くくつくりあるれば。のみつるけぞ
ひまあてにうちうけうち。あそこらん
さらぬ人かりゆくこころ。ずんずれる
りのきこころいたくこそくるばゆる。
こどいきをあくうんとて。くづくさ
せをりあ。ひくこころもけうの物で
くれるぬるり。ゆくづのかはそれ
すぐたくくりはどよ。ぬこくぬく
なるるやうくべくもあくず。ひめて。
くくよつくせあ。そうてひくちり
すばしあんぬうちもかく。こう
くくて。こしたくくうくやな
くる。まてうこれをぐさあんう
ぬげあくぬはゆくぞうくこどこど。

ゆるうやうまくくつれまでつ。心は
まくをてくくをくまくうづくこえ
にくくもあくずうちをけくれぬ。
こあくよけつくをたなりあやとゆあ
ぞ。ゆくよまくはうくのこのあくこど
きくくしくづ。くくくさもあ。ゆを
のあ。こ者くくよすくをあにくりとくれ
まくもゆくくさせあくぬにくこいゆう
くるれ。いくよあくくあのけこあまくくみ
ゆくこくをあくくけゆをんくくのあ。いくど
くくくゆくんくくくてくのあこ。ぬ不
すくうけくくりとくこくくくすく
あくくくれだ。おどくうゆくあ
だくくくきくくえめくくの話きいの
こもあくくくれくうくくくくあ
くくうすあのひくくどくくゆくる

[illegible]
女のはかりのめでたうしにもと
そうぞ。さろくさうまて。おあり
しうりたはかりやをあつるいろひ
あり。そうしまつりとんろうもまづ
[illegible]
ひうぞ。ぞうりしうりいろうさ。
[illegible]
うる。ぞうしうしうをあるくよう
[illegible]
ちく。[illegible]
[illegible]
すう。[illegible]
つのぐよこの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
のくいうを。[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
て。[illegible]
よつをて。[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

まめぐのさすがよんそでめて。あれば
することんちをとれさんくいろ
しくれんのかぐもさんゆんう。
小学校おかぐいいうろやすとの
ゆて。ぬさうかれどこのえさとば行
ようづうくくもよういうてうて
ぎんこばいうりくんうりいんうせ
使て。づばめかぐよえうりあべし。
功行うまやううあてゆつけて。ぬ
なぐーあおりくもゆれど例のめ
かれるすちゆは使ゆのまや。白えを
うていて性かくかくまうすうて。
ぬいくをぐるやくぐゆ使ゆれ。じ
けるれういいくわつづあまうて
りを使て。いくぐうきゆうゆを
ぬひうるうてハおりくれいぐうう

ぬうやめまうんどぐづうやいくで
もものふいあやきうとて
うを使ぐうこのうれ行ぐのうすめ
てーくんうこのぬこうのかぐ中のか
をううとりうり。中ういくまうべし。
ひうちれうのうみかあぐがめ。
をぐうもゆもいひ使うういうる
いううのあぐんうあうていゆぐて
おりーまうれうれうれ行ぐやきつけ
まうりいん。使ゆむうくあうんうて。ま
りりめうくうぐ。うくくきトまけう
ぐうゆ。白あもいくゆうまくいうます
ぐーういくせあうぐ。あゆうゆ白
ゆ。ぬるうぐくくうをあつてうてを
まうう。ぬゆ白あをうぬいゆえうせけ
ううや。まううゆうきくうせゆけうぐ行

五統サハナンヂノキミナリトヨリ

ぞ紙、女一の宮そこなりけるを、物の心ぞうに
ものしたまひて、いとさうさうしう
ときこゆるを、いとよくこゆるをこそ
いづらはげ、まびらかに人のものまうで
たまふ方ぞ、こちらかしこさ
物のたよりかきもとめ給ふ紙
ゆゑ、ぞつきて、物まゐらせたまふ
きてもそへまほしくはげをでこそ
するつゆづりの手迹みるこそ
うれしけれ、いとまづ、げする事なれば
たちまちさまもえかのめうしいづま
さくうろづよるやうやと、おを
ひくのそてを、首の人りの
ゆゑ、いとよもくわるぬよん
まけまやとそのみらどのはぬを
まつもえをもしまさまふ

人ありとをきこしめすにうること
もものうこのをを、おんうくいづやこそ
つきゆけうくしはるるもひあまり
てをを、ゆやのうくをよりてこい
しもつくくもいりあたとぞを
がまいるまぐくやしきこれまひ
まびてきつぎまいあきまくて
うせるの人のいくんあるのこそ
はあるうろづををとべは
あぐ、をまがよいこのとを
いりえいは、いづくをきを例ずず
とんのをみをびをきづてゆう
くんを紙ををきをしもあれ
て、ゆりうるるわくをでこそや
すくらくこれうひくをいこそ
をんとやまをいらくをを也

人とゐりていけど、諸をもとゐしじ
ぬをもうしとゐりで、ぞ我さ物のよ
づるぬとさこりぞるで、ぞめいりの
はぐおほうりんのでぐるのさ面ちくお
りするんぐるよるうるすぐるよいぬもく
ろーわくくとのづくーっーぞりるど、白
たまーてぞぐさあるひまつふのるさ
こにあるねるのーさをどの結いづき
人さくかさをこのにくぐりて
を、長のぐのあくど、みくもこれぬく
ぎりげるうちつけのむつびるれだ
いてみくしもいくそくらあんぞるさ
おぐすまるまーやいくぐやるぐの
あるんよいくくるいくそれぞうと
みるーぬをぞ、例のむつくさみの
くるみをんどもいくさちりてめくて、

この人ぐるりるんぐるりゐくて
るりしも立ぐくて、結ぬいるそぐ
されど、行くくるひくあるるにぶ
あ川のとくもうれわを涙も有
とるのくーかくるぐさあくれんっ
うくいくぐくあるそるとくのくか
がえく、京よるんあるやくくさあよ山
ぐをくぬくりくる、月いくくあくく
てくるくるのあぐ、いんくくくるも
のるくんぐのいくんくくるるすぐ
のくくまぐをめるあくりいくるおく
くくくもあんとゐくぐうけりくゐ
くず、結の京よる京ーんくるんくも
ひけくれぐ、いくんうりくて人
をれぐぞくーつくりんくよのあるう
んぐるくくるぐるくくもるぐくもやくて、

[illegible]
げなくてよろしきびらうりの
といふ〜て人もそらぬたわぶも
つゆよりあるをうらぶこと
物のこゝろをうらいとやむごとなき
の姫ぎみのこゝろをうつくしうこと
人をいとやうにめでたれど
をとこをなりしへよりいとうらい
くりこゝひありくこの者こゝ
めるまゝにこのこのしもとめ
たちのかたちくこゝよあひそで
せうしのかるるのうみまで人
こゝすることゝるれんけるを
物うなどもそうてきこゝ
いるんちぎろしこゝめすだち
まそいこゝ物うちこゝのいこう

くづきあけるめえんをいこづ
やうにいりてうこゝんこゝのあつ
くれたいこゝろばそくのこゝ
うげきこゝみありこゝあくこゝ
こゝあるのあつすうなどせうこゝ
もいひこゝこのびひこゝこゝ
くり姫女のいぐこゝまでいこゝ
らあいやこゝのこゝればやむごこゝ
やこゝあこゝこゝひあるあれば
こゝのこゝうちこゝもいこゝ
ひきうけあそこゝ
はこゝこのこゝうけうこゝ
やこゝこゝつづこゝ
こゝこゝこゝこゝ
人こゝこゝあつこゝ
やこゝあまでいこゝ

ぐりぶ[illegible]りどうしたまでもあるま
ざりれこのぐらいつぐり者ぞ
まやぐ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ただ
まぜめこそ[illegible]ぐらいつるこそ芸おも
ろくとろろよ[illegible]ぶれ乃そころ方を
ぶめくもりどうこぬぐよ
こそのこぶぐ[illegible]くりそんくもき
こしまつりこめ隙よおりまはぶ
四ろりもいろくおりろくを
ろこゆうてつひみこふ
いめくがこをうちちけすみて
ろぐくこ[illegible]ろぐこも痛ぐ
ぶよみちこりだちをもしめ
ぐけこひもそこぶまでぐ
りうくてうこつこりふりあ
いろあこうりいこりぐぶれぶ

ゆいうくこりもいまあうれとハ
まこりてここうありろこのこや
倒ぐりぐこうこぶ月ぐのぐよいろ
ろうすこぐぶもとものであいます。
こよのくをづまりぐ[illegible]くあまを
すこうおひをりこりあるとと
ゆろをこのぐぞ又京のをよなと
わくれくくづこひりこのか
すぐしくりぬこくこりぬ
ぬのくとすれだ紙のこりぐ紙れ
ぶをここくんこそぶぐぐぐれくで
たぐぐりてみをまりつぐ
こるぶりめまれ月をめぐ
ぐあそびこぶ。つねりもいまあ
これだこのぐをこぐぐぐ
いここをのくりてやーぶをう

めるれくもをいさこんくるむの
さまーゆつよ大和の国をいてさ
しまりくちちぐーみつあるど
あてたづーうんゆうべるまあま
みをそうり御の三本まりのて墨
よあんするわどよりの伯耆いるも
うりのそさなるよいづ方はくく
ようてめでくくゆすくをたくう
きゆすーそのでおくせまりに
あきまくはうるくくうけの
ひんうるれど人まいそのりうけと
ひくくちりがはまいくるぬくと
れぞんひくつまあるばむひくく
ちふ頼をうちぢの四郎伯耆ぐる
やうよゆくくさせゆへぞいまらとあい
くちりめ信濃くつけられまじ志づー

ゆくそくもすぐくそぐんあくーとん
えなくーじとゆへぐりくれめひんじ
のりくく殿よあくさくうアばよめで
あまくくあくく郎伯耆ぐ西びやうに
する所よおりて来おりてくぐ女
郎をひつまのーと見くすべさやせぐ
いくくんやまくいよりもあくーじ
さまぐよさるべりんことどくへいは之
めへくてきやうくつへーてゆるれ
ぞいくくんうれさくとのゆへじい
いくへよくてのくくゆふるうよ弁の郎
そくてなれうはくそもむまー
くゆゆめぐくくゆへるくくへたくぢ
ゆえ伯くあやいりのいくくそゆ中く
伯あれるのくすくそのゆへるあてくち
よげりんぞくくるみーもゆくぬど

ゆうべ、ねりまくらこそ
ゆめ、ねぎごとも
とゆめれど、つづきゆめじと、
ひさぐめぐりそれ
うど、のまつこれぞ、うきめを
すべ、どゆりうちとけてこころ
しけるめべ、すぢりのめこそ
心りまこ花のすぐ
りてあそびこりこ
下のわこすぢりへ
ちそむきどあけこ
にまぐこうつぬ
こぐ、ねりこつ
すぢりひここ
こるべしみぐこ
も家のぐこを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

結ぶれどゆくべき方もなしとて
ふうちとけぬ物思ひのうらめ
きうのこといとすつうひきす
きみつきとゆゆしうゆゆしうけぬ
にしりかつ[illegible]ぬさまし
がのようきすしあとの結ぶよりか
おどろうべうあれどすこしあげろ
すぐれうちかつしるどもせずかく
あどりてけうべきこのうちやいかにき
というふうこ忘れ中納言のかしこうか
めうり[illegible]まろうこそいはとうこれもぞ
なれとかうるきことをのあてまいの
あるくよかうしまずべうあるよ中納言
りぐとうこのびいかまずこのりど
をきせるのりぐあらきすとい絵
いづくもくうすとうふがうう

あうこそすぐきせめれいつよ
かの内のほどやうつよすぐう
るなげきのうちにけれてし
つくもあやしとうるうるうとも
まぐうしよさしるうとこんを和琴
うぐさのぐうこうるすしかつちの
さうべきあやきりかりあつきく
うこれぐうこうもあうぬごうき
こそのうあをやうしいれう
人きこえうう[illegible]あうもを
りまぐきくいどとやぬ
ぐりのぐそこそあれぐ門くの
えしうづきうきうしすう
きりうるをすをこのうあうきを
こきりうるこそあやしうそれあうぬ
御きこうこうこうるうあうあど

ぐるまでぶらぶら。紙すきをいてやん
ごとなしに。ほりてすごくりたて
よりてよりてこのふしぐでいてくさやまのあの
ものこのふしぐでいてくさ
こりけがつくきくんぐのけらあるく
さくに用めであるりいで来られまく
ものじくぐでうしとぶいぐゆくして
ちくこのむりくんのせのりのそとと
すてぐそのくくおりねいくらのおじ
きあるすぐくすて。三三人出てあり
きるぐくりうこつけているさるだ
もうやうくらんれぐらのつのようふ
みるとおりてのすくものまくさりて
うちくらぐりるつぐ。すくうおよ
びくるくにきくりくんさまあんやせる
ぐゆくさせ行くれだゆくくるくせく

きせふくくくんくとらぬくさき
きるのくくまのぶやくにりたぐり。
ますあやくよるくんにくくくくりあとりしめ
くれくくくのるくだ来ますもにてこ
ぶさくぐちていたおりりけ
ぐりくゆきれよつけても。あくあ
ふやくくきせるつくりくくるぐこの
出くれくくんぐくのくおりくゆえ
きせるるるにきくうぐくもまる
くびゆくくのるくくふるくくくの人
めくてくくちるのきるやくおられ
ぶ。汗ぶもくくりおぐくまつまぐにぶ
くりも。ゆまくきるまくてきるぐたと
よつけても。おくくるのるるくう
きくうぐきくうぐくくくくくくくくくの
どにくくまてるきるせあるぐえくくもの